

平成 29 年度
事業報告書

(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

学校法人 高知学園

目 次

	頁
I 法人の概要	
[1] 教育方針	2
[2] 学校法人の沿革	4
[3] 設置する学校等の状況	7
[4] 設置する学校等の学生生徒等数の状況	10
[5] 役員・評議員の概要	11
[6] 教職員の概要	14
II 設置学校の事業報告	
[1] 高知学園短期大学	15
[2] 高知中学高等学校	26
[3] 高知小学校	32
[4] 高知学園短期大学附属高知幼稚園	38
[5] 高知リハビリテーション学院	42

I 法人の概要

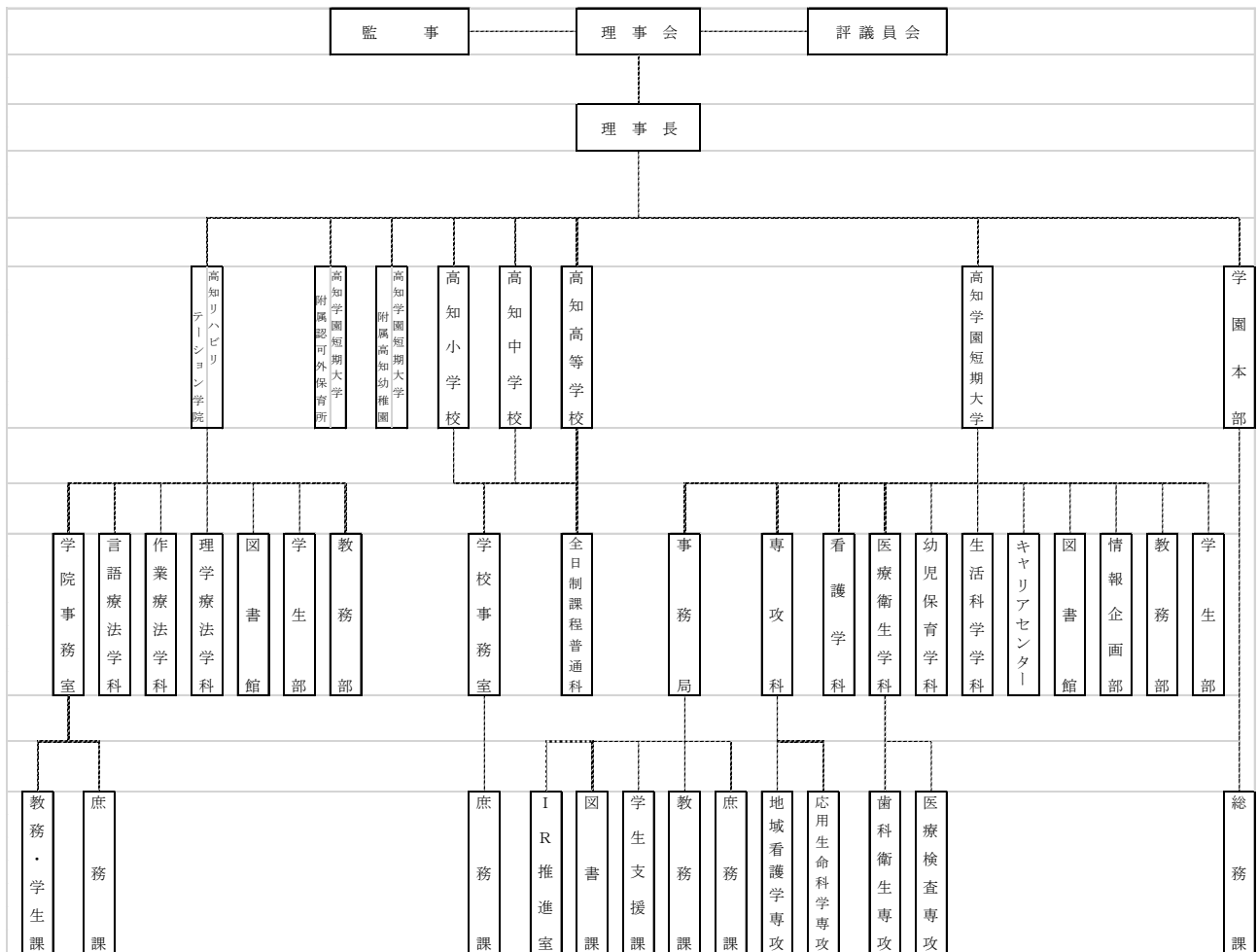
本学園は、明治 32 年、現在の高知市桜井町に開設された「江陽学舎」が前身で、平成 29 年度には創立 118 周年を迎えた。創立者は、独学で漢学や英語を習得された信清権馬（南国市出身）である。

学園の沿革をたどると、大正 8 年に城東商業学校が開設され、昭和 23 年に新教育制度により城東高等学校、城東中学校が設立された。昭和 26 年に川島源司（昭和 37 年に初代学園長に就任）が同高等学校、中学校の学校長に就任され、昭和 27 年には幼稚園を設置し、昭和 31 年には校名を高知高等学校、高知中学校に改称、昭和 32 年に現在地に移転し、同年に小学校を設置して、総合学園としての基礎が確立された。

昭和 42 年に短期大学を、昭和 43 年には私学では全国で最初のリハビリテーション学院を設置、現在では、幼稚園から小学、中学、高校、短大、リハビリテーション学院までの 6 部門で運営し、合わせて 2,774 人の児童、生徒、学生たちが学んでいる。

近年、少子化が進む中で経営の安定を図り、時代のニーズを踏まえた教育活動を充実強化するためにも、学生・生徒の確保は重要であり、全学校が共同で実施する募集イベント(GAKUEN Festa)の開催をはじめ各学校が創意工夫を凝らし、募集活動に努めた。

高知学園組織図



[1] 教育方針

幼稚園から短期大学、リハビリテーション学院までを一貫するこの高知学園の教育の基本姿勢に関し、川島学園長は次の如く述べているが、これこそ初代学園長の長期にわたる教育体験に基調し、その念願とするところを思いきり盛り込んだもので、現在、将来を通じての学園憲法の性格を持ち、本学園の明日の盛衰は、この活用の如何によるといえよう。

今後の日本の政治、経済、産業、文化その他のすべての方面のあり方が、世界一環としてのものでなければならぬことは、戦前よりはるかに高度の深さをもつにいたりました。と同時に、科学の急激なる進歩を中心に、今後世界の動きを出来得る範囲に見通し、これにそぐ教育方針でなければならぬと思います。

したがって今後の教育は、日本の長所を認識し、それに立脚すべきであります。由来、日本人には数々の長所がありますが、一面に島国根性に出発した大きな欠陥があり、同時にその日本の中でも別して高知県は他府県に比べて長所、短所が著しいのであります。そのため高知県内の学校教育はこの日本の長所、高知県の長所を伸展すると共に、世界先進国の長所を取り、日本及び高知県の短所を補うことを、教育の出発点としなければなりません。この見地から一面社会道德の向上を計ると共に、一面学科においても科学教育と英語教育に重点をおくべきであると存じます。

国家の興隆と個人の幸福は、教育がその根源でなくてはなりません。本学園におきましては、教育の常道を歩むためしは、如何なることをなすにも、すべて至誠をもって事に当たるという人間修行の根幹の精神を生徒の基本精神としております。至誠をもって事に当たれば必ず(1)「正を行い邪を退ける真の勇氣」と(2)「何事をなすにも、到るところに到らざれば止まざる精神」を生じ、従って「人一度してこれをよくすれば、己はこれを百度し、人十度してこれをよくすれば、己はこれを千度する」との強い精神が生まれ、更に「今日の己は昨日の己に非ず、明日の己は今日の己に非ず」との進取の気性がおのずから湧いてくるのであります。こうした修行を日々生徒が自己の課業ならびに生活を通じて絶えず反復これつとめれば、必ず他人に信頼される人となるでありましょう。この「人に信頼される人物の育成」こそ本学園教育の第一の着眼点であります。

すべて生徒の日々の課業ならびに生活は、生徒の自主性を本体としなくてはならないことはいうまでもありませんが、自主性を尊重すればなおさらに、教師の指導力の強化を必要とし、ここにはじめて真の人物を作り得るのであります。

教育は生徒を中心として、教育者、父兄、卒業生が一丸となって当たらなければ、その真の効果は得られないのであります。しかし、何はともあれ、その根源は教育者自体にあります。生徒をして正道を歩ましめるためには、まず教育者自身が教育の本道を歩まなければなりません。生徒をして自発的に研究し、学習せしめるためには絶えず研究者自身が研究し

なくてはなりません。生徒として健全な精神を養成せしめるためには、教育者が生徒と共に自らの修行を怠ってはなりません。

本学園には短期大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、リハビリテーション学院の6つがありますが、私立学校は万事において十分に伸び得る可能性を持ち、教育の最高峰を歩むべき使命があります。その使命達成に向かって日々その実績をあげることに努めるべきであります。

(昭和53年3月12日発行 川島源司伝より)

[2] 学校法人の沿革

法人の 沿革	明治32年 4月	高知市中新町に江陽学舎創立（創立者 信清 権馬）
	明治36年 4月	江陽学舎を江陽学校と改称
	明治39年 4月	高知市中新町より北新町84に移転
	大正 5年 4月	江陽学校に簡易商業科併設
	大正 7年 4月	簡易商業科を廃止し、商業補修学校設立
	大正 7年12月	乙種商業学校文部大臣認定
	大正 8年 4月	商業補修学校を廃止し、城東商業学校（乙種修業年限3年）設立
	大正10年12月	財団法人城東商業学校設立
	大正15年 3月	城東商業学校を甲種（修業年限5年）に昇格
	昭和 4年 3月	江陽学校廃止
	昭和19年 4月	高知女子商業学校設立
	昭和21年 4月	高知女子商業学校を橘高等女学校と改称
	昭和23年 3月	新教育制度により城東高等学校、城東中学校設立
	昭和26年 3月	財団法人城東高等学校を学校法人城東高等学校に組織変更
	昭和27年 3月	学校法人城東高等学校を学校法人城東学園に組織変更、城東学園附属幼稚園設立
	昭和31年 5月	学校法人城東学園を学校法人高知学園に組織変更、城東高等学校を高知高等学校（普通科、商業科）に、城東中学校を高知中学校に、城東学園附属幼稚園を高知学園附属幼稚園に改称
	昭和31年12月	高知小学校創立
	昭和32年 3月	高知市北新町より高知市北端町100番地に移転
	昭和34年 9月	高知学園附属幼稚園園舎を高知市北新町2の122に移転
	昭和35年 1月	高知学園高知工業高等学校設立
	昭和37年 1月	高知学園高知工業高等専門学校設立
	昭和38年 3月	高知高等学校の商業科廃止 高知学園高知工業高等専門学校廃止（国立高知工業高等専門学校に移管のため）
	昭和39年 3月	高知学園高知工業高等学校廃止
	昭和42年 1月	高知市旭天神町字陣ヶ森292の26に高知学園短期大学設置認可（食物栄養科）
	昭和42年 3月	高知学園短期大学食物栄養科を栄養士養成課程として指定
	昭和43年 2月	高知学園短期大学に衛生技術科設置認可、高知リハビリテーション学院設置認可（各種学校 修業年限3年）
	昭和43年 3月	高知学園短期大学食物栄養科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二級普通免許（保健・家庭）） 高知リハビリテーション学院を理学療法士及び作業療法士法第11条第1号の規定による理学療法士養成施設として指定
昭和43年 4月	高知学園短期大学衛生技術科を衛生検査技師養成学校として指定	
昭和44年 2月	高知学園短期大学に幼児教育科設置認可、高知学園短期大学幼児教育科を保育士養成学校として指定、高知学園短期大学幼児教育科を幼稚園教諭二級普通免許を得させるための課程として認定 高知学園附属幼稚園を高知幼稚園と改称、園舎を高知市北新町より高知市北端町100番地に移転	
昭和45年 1月	高知学園短期大学に保健科設置認可	
昭和45年 2月	高知学園短期大学保健科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二級普通免許（保健）、養護教諭二級普通免許）	
昭和45年 4月	高知学園短期大学保健科を歯科衛生士学校養成所指定規則第2条の規定に基づき歯科衛生士養成学校として指定	

法人の 沿革	昭和46年 4月	高知学園短期大学衛生技術科を臨床検査技師学校養成所指定規則第2条の規定に基づき臨床検査技師養成学校として指定
	昭和50年 3月	高知リハビリテーション学院の修業年限3年を4年に変更承認
	昭和53年12月	高知学園短期大学に専攻科設置（幼児教育専攻科修業年限1年）
	昭和55年12月	高知リハビリテーション学院を各種学校から専修学校として認可
	昭和62年12月	高知学園短期大学保健科に保健専攻、歯科衛生専攻設置
	昭和63年 1月	高知学園短期大学保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二種普通免許（保健）、養護教諭二種普通免許）
	昭和63年 3月	高知学園短期大学保健科歯科衛生専攻を歯科衛生士学校養成所指定規則第3条第1項の規定に基づき歯科衛生士学校として指定
	平成 2年 3月	高知学園短期大学食物栄養科、幼児教育科及び保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の正規の課程として認定 食物栄養科・中学校教諭二種免許状（家庭）、幼児教育科・幼稚園教諭二種免許状、保健科保健専攻・中学校教諭二種免許状（保健）、養護教諭二種免許状
	平成 5年 4月	高知リハビリテーション学院に作業療法学科設置（理学療法士及び作業療法士法第12条第1号の規定による作業療法士養成施設として指定）
	平成 7年 4月	高知幼稚園を高知学園短期大学附属高知幼稚園と改称
	平成 9年 4月	高知リハビリテーション学院に言語療法学科設置
	平成10年10月	高知リハビリテーション学院校舎を土佐市高岡町乙1139-3に移転
	平成11年 4月	高知リハビリテーション学院言語療法学科を言語聴覚士法第33条第1号及び附則第2条の規定による言語聴覚士養成所として指定
	平成12年 2月	高知学園短期大学幼児教育科及び保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を習得させるための大学の正規の課程として認定 幼児教育科・幼稚園教諭二種免許状 保健科保健専攻・中学校教諭二種免許状（保健）、養護教諭二種免許状
	平成13年 3月	高知学園短期大学専攻科（幼児教育専攻）廃止
	平成13年 4月	高知学園短期大学専攻科（応用生命科学専攻）設置
	平成17年 4月	高知学園短期大学食物栄養科を生活科学学科に、幼児教育科を幼児保育学科に科名変更
	平成17年12月	高知リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科・言語療法学科の修了者に対し「高度専門士」の称号を付与することができる学校として指定
	平成18年 3月	高知学園短期大学保健科保健専攻廃止
	平成18年 4月	高知学園短期大学に医療衛生学科設置
	平成19年10月	高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻、歯科衛生専攻を臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律第15条第1号、歯科衛生士法第12条第1号に定める学校として指定
	平成19年10月	高知学園短期大学看護学科を保健師助産師看護師法第21条第1項に定める学校として指定
	平成19年12月	高知学園短期大学看護学科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定 養護教諭二種免許状
	平成20年 3月	高知学園短期大学衛生技術科及び保健科歯科衛生専攻廃止
	平成20年 4月	高知学園短期大学看護学科設置
	平成22年 8月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を保健師助産師看護師法第19条第1号に定める学校として指定
平成23年 2月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定 養護教諭一種免許状	
平成23年 4月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻設置	
平成26年11月	高知学園短期大学附属認可外保育所設置	
平成29年 2月	高知リハビリテーション学院を職業実践専門課程として認定	

学校法人高知学園の沿革



[3] 設置する学校等の状況

高知学園設置学校等

平成29年 5月 1日現在

学 校 名	学 長、校 長、園 長、学院長 及び副学長、部長、館長、室長、教頭		
高知学園短期大学 高知市旭天神町292-26	学 長 学 生 部 長 教 務 部 長 情 報 企 画 部 長 図 書 館 長	小 島 一 久 大 野 由 香 吉 村 斉 寺 尾 康 中 山 和 子	
高 知 高 等 学 校 高知市北端町100	校 長 副 校 長 教 頭	森 曉 石 井 全 大 崎 基 喜	
高 知 中 学 校 高知市北端町100	校 長 副 校 長 教 頭	森 曉 田 中 敏 彦 久 保 明 弘	
高 知 小 学 校 高知市北端町100	校 長 教 頭	友 村 憲 朗 藤 永 浩 章	
高知学園短期大学 附属高知幼稚園 高知市北端町100	園 長	山 本 勝 子	
高知リハビリテーション学院 土佐市高岡町乙1139-3	学 院 長 副 学 院 長 (兼) 教 務 部 長 学 生 部 長 図 書 館 長	大 倉 三 洋 濱 田 和 範 清 岡 学 司 山 崎 裕 司	
高知学園短期大学 附属認可外保育所 高知市北端町100	所 長	山 本 勝 子	

高知学園配置図

- 高知学園本部
- 高知学園短期大学

【所在地】高知市旭天神町292-26

- 高知高等学校
- 高知中学校
- 高知小学校
- 高知学園短期大学附属高知幼稚園（認可外保育所併設）

【所在地】高知市北端町100番地

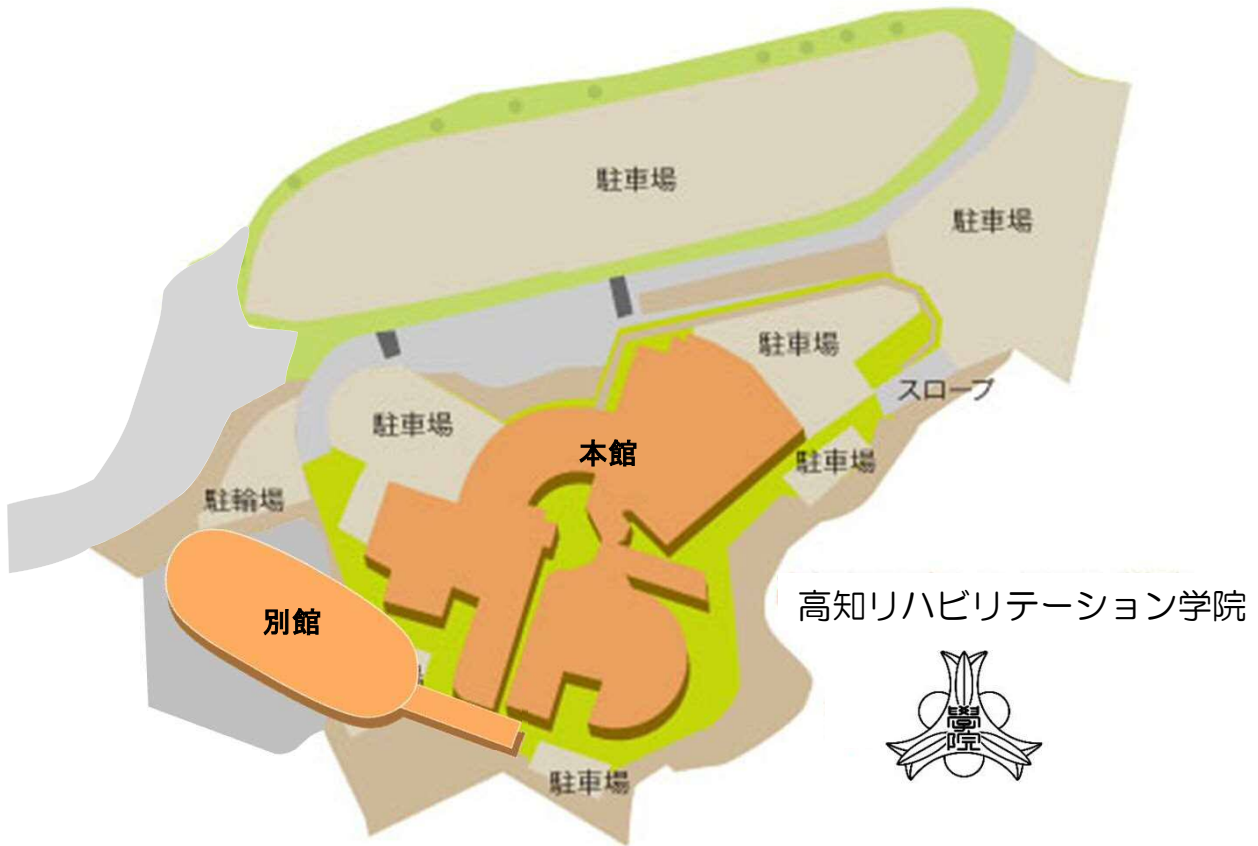
校地	学校名	校 地		校 舎	
	(所在地)	現有面積		現有面積	
校 地	高知学園本部・高知学園短期大学 (高知市旭天神町292-26)	50,578.98	m ²	15,112.00	m ²
	高知高等学校・高知中学校・高知小学校 (高知市北端町100番地)	87,860.81	m ²	25,765.00	m ²
校 舎	高知学園短期大学附属高知幼稚園 (高知市北端町100番地)	1,837.00	m ²	836.00	m ²
	合計	140,276.79	m ²	41,713.00	m ²



● 高知リハビリテーション学院

【所在地】土佐市高岡町乙1139-3

校 地	学校名	校 地		校 舎	
	(所在地)	現有面積 (借用)		現有面積	
	高知リハビリテーション学院				
校 舎	(土佐市高岡町乙1139-3)	26,353.96	m ²	9,596.12	m ²
	合計	26,353.96	m ²	9,596.12	m ²



[4] 設置する学校等の学生生徒等数の状況

(平成29年5月1日現在)

フリガナ 学校名 (所在地)	学部・学科等名	開年度	入学定員	入学者数	収容定員	現員
ガッコウホウジノコウチガクエン 学校法人高知学園 (高知市北端町100)	法人本部	年度 —	人 —	人 —	人 —	人 —
コウチガクエンタンキダ イダク 高知学園短期大学 (高知市旭天神町292-26)	生活科学学科	S 42	80	62	160	112
	幼児保育学科	S 44	80	88	160	171
	医療衛生学科	H 18	80	77	240	238
	医療検査専攻	H 18	40	42	120	134
	歯科衛生専攻	H 18	40	35	120	104
	看護学科	H 20	60	73	180	214
高知学園短期大学計			300	300	740	735
専攻科						
応用生命科学専攻		H 13	10	11	10	11
地域看護学専攻		H 23	20	18	20	18
コウチコウトウガクッコウ 高知高等学校 (高知市北端町100)	全日制課程	S 23	420	203	1,260	617
コウチチュウガクッコウ 高知中学校 (高知市北端町100)		S 23	330	134	990	422
コウチショウガクッコウ 高知小学校 (高知市北端町100)		S 32	80	61	480	308
コウチガクエンタンキダ イダク クワゾウ コウチヨウチエン 高知学園短期大学附属高知幼稚園 (高知市北端町100)		S 27	40	19	120	105
コウチリハビリテーションガクイン 高知リハビリテーション学院 (土佐市高岡町乙1139-3)	理学療法学科	S 43	70	44	280	258
	作業療法学科	H 5	40	41	160	169
	言語療法学科	H 9	40	24	160	127
	計		150	109	600	554
コウチガクエンタンキダ イダク クワゾウ ケンカガク イタイショ 高知学園短期大学附属認可外保育所 (高知市北端町100)		H 26	15	4	15	4
合 計			1,365	859	4,235	2,774

[5] 役員・評議員の概要

(1) 歴代理事長

氏 名	在 任 期 間
橋 田 早 苗	大正10年 12月 ~
山 本 忠 秀	~ 昭和11年 10月
中 島 和 三	昭和11年 10月 ~ " 18年 5月
川 島 正 件	" 18年 6月 ~ " 23年 11月
坂 本 重 寿	" 23年 12月 ~ " 38年 4月
(代) 井 上 重 陽	" 38年 5月 ~ " 40年 2月
藤 田 三 郎	" 40年 3月 ~ " 46年 1月
川 島 源 司	" 46年 1月 ~ " 51年 3月
藤 本 孟	" 51年 4月 ~ " 55年 7月
岡 林 濯 水	" 55年 7月 ~ " 62年 4月
汲 田 精 一	" 62年 4月 ~ 平成元年 5月
竹 内 明 義	平成元年 6月 ~ " 10年 8月
西 野 恭 正	" 10年 8月 ~ " 16年 4月
(代) 下 山 晃	" 16年 4月 ~ " 16年 8月
成 田 十 次 郎	" 16年 8月 ~ " 20年 8月
小 笠 原 俊 明	" 20年 8月 ~ " 26年 8月
吉 良 正 人	" 26年 8月 ~

注(代)は、理事長代理

(2) 歴代学園長

氏 名	在 任 期 間
川 島 源 司	昭和37年 4月 ~ 昭和46年 3月
高 石 次 郎	" 46年 4月 ~ " 49年 3月
山 崎 重 明	" 49年 4月 ~ " 51年 3月

昭和51年4月 学園長の職制廃止

(3) 役員・評議員の氏名等

① 役員

(平成30年3月31日現在)

理事	定数	10人	任期	2年※	選任条項別定数実数		(注) 選任区分の各号は寄附行為第6条第1項の各号			
					区分	定数		実数		
(※1号理事及び2号理事を除く)					号	人	人			
実数	常勤		5人					1	2	2
	非常勤		5人					2	1	1
	計		10人					3	3	3
	うち外部理事		5人		4	4	4			
監事	定数	2人	任期	2年	号	人	人			
実数	常勤		0人					1	2	2
	非常勤		2人					2	1	1
	計		2人					3	3	3
	うち外部監事		2人		4	4	4			
理事・監事の区別	職名又は担当職務	代表権の範囲	氏名		常勤・非常勤の別	就任年月日 (重任年月日)	選任区分等 項又は号 選任区分			
理事	理事長	法人の全ての業務	吉良正人		常勤	H14.3.1 (H28.8.31)	4号 学識経験者 (理事会選任)			
〃	—	—	小島一久		〃	H26.4.1 (H29.4.1)	1号 学校長の互選			
〃	—	—	森 曉		〃	H25.4.1 (H28.4.1)	1号 〃			
〃	—	—	東好男		〃	H26.8.31 (H29.8.31)	2号 学園本部長			
〃	—	—	竹内康雄		非常勤	H18.8.31 (H28.8.31)	3号 評議員 (理事会選任)			
〃	—	—	大倉三洋		常勤	H22.4.1 (H28.8.31)	3号 〃			
〃	—	—	上岡義隆		非常勤	H26.8.31 (H28.8.31)	3号 〃			
〃	—	—	大島 仁		〃	H27.10.16 (H28.8.31)	4号 学識経験者 (理事会選任)			
〃	—	—	細木 秀美		〃	H20.8.31 (H28.8.31)	4号 〃			
〃	—	—	田中正澄		〃	H28.8.31	4号 〃			
監事	監事		行田博文		非常勤	H18.8.31 (H28.8.31)	— —			
〃	〃		高瀬久志		〃	H14.8.31 (H28.8.31)	— —			

② 評 議 員

定数 実数 任期	21人 21人 2年	(注) 選任区分の各号は寄附行為第24条第1項の各号	選任条項別定数実数		
			区分	定数	実数
			号	人	人
			1	3	3
			2	6	6
			3	5	5
			4	3	3
			5	4	4

氏 名	就 任		選 任 区 分 等	
	就任年月日	重任年月日	項又は号	選任区分
友村 憲朗	H29. 5. 31	—	1号	法人職員（理事会選任）
大倉 三洋	H22. 4. 1	H28. 8. 31	1号	〃
山本 勝子	H17. 5. 27	H28. 8. 31	1号	〃
秋山 保之	H26. 8. 31	H28. 8. 31	2号	法人設置学校卒業 者（理事会選任）
竹内 康雄	H18. 8. 31	H28. 8. 31	2号	〃
山地 好市	H23. 6. 2	H28. 8. 31	2号	〃
野々村 雅代	H22. 8. 31	H28. 8. 31	2号	〃
西森 美恵	H28. 8. 31	—	2号	〃
北川 眞智子	H26. 8. 31	H28. 8. 31	2号	法人設置学校卒業 者（理事会選任）
小島 一久	H26. 5. 29	H28. 8. 31	3号	理事の互選
森 暁	H25. 5. 31	H28. 8. 31	3号	〃
大島 仁	H27. 10. 16	H28. 8. 31	3号	〃
細木 秀美	H20. 8. 31	H28. 8. 31	3号	〃
東 好男	H26. 8. 31	H28. 8. 31	3号	〃
市村 瑞也	H29. 5. 31	—	4号	在学生の父母若しくは保護者（理事会選任）
渡邊 基文	H28. 8. 31	—	4号	〃
細川 洋伸	H26. 5. 29	H28. 8. 31	4号	〃
上岡 義隆	H20. 8. 31	H28. 8. 31	5号	学識経験者 （理事会選任）
竹村 彰夫	H18. 8. 31	H28. 8. 31	5号	〃
吉良 正人	H14. 3. 1	H28. 8. 31	5号	〃
田中 正澄	H28. 8. 31	—	5号	〃

(4) 理事会・評議員会の開催状況

・理事会

第1回	平成 29年 5月 31日
第2回	平成 29年 11月 7日
第3回	平成 30年 2月 5日
第4回	平成 30年 3月 22日

・評議員会

第1回	平成 29年 5月 31日
第2回	平成 29年 11月 7日
第3回	平成 30年 2月 5日
第4回	平成 30年 3月 22日

[6] 教職員の概要

平成 29年 5月 1日現在

学校名	教 員		職 員		合 計
	専 任	兼 任	専 任	兼 任	
学 園 本 部	0	0	8	1	9
高知学園短期大学	55	130	14	7	206
高知高等学校	41	11	3	11	66
高知中学校	30	7	1	2	40
高知小学校	16	7	1	5	29
高知学園短期大学 附属高知幼稚園	5	8	0	5	18
高知学園短期大学 附属認可外保育所	0	1	0	0	1
高知リハビリ テーション学院	30	83	8	12	133
合 計	177	247	35	43	502

II 設置学校の事業報告

[1] 高知学園短期大学

1 事業の概要

「世界の鐘」の呼びかける平和と友愛の精神を柱とし、自由と規律を尊び、真理を深め、創造性と情操を培い、広い教養と健全な社会性を身につけた短期大学士の学位を有する専門的職業人を育成するという本学の基本方針のもと、本年度は、12 項目の重点目標を定め、その達成のため取り組んだ。

- (1) 入学者の確保に向けた効果的な施策の実施
- (2) 生涯学び続ける力の育成及び、キャリア形成教育の充実
- (3) 大学教育の入口から出口に至る教育の充実（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの徹底）
- (4) 国家試験対策の充実
- (5) 教職員の資質指導力の向上及び、教職員の協働体制の確立
- (6) グローバル化への対応として、北京大学をはじめとする他大学との交流連携の拡充
- (7) 文部科学省等の外部資金の獲得
- (8) 短期大学の中長期的な将来構想についての調査検討
- (9) 地域貢献活動の活性化
- (10) 学習効果を高めるための施設・設備の充実
- (11) 震災対策等危機管理体制の充実
- (12) 高等教育機関（大学・短大・高専）との連携強化

2 事業の実績

- (1) 入学者の確保に向けた取り組みでは、学生支援課と入学試験募集委員会との有機的な連携のもと教職員の協働体制により事業を展開した。年間行事計画により、積極的な広報活動を行っている。年間 4 回開催のオープンキャンパスでは年度毎にテーマを掲げ、それに沿って各学科・専攻で企画検討し内容の充実を図る工夫、時期を見極めた効果的な学校訪問、教職員が担当する高校での講演活動や説明会、高校の行事への積極的な参加等を通じて本学の理解啓発に努めた。

入学者は、本科 293 名、専攻科は、応用生命科学専攻 11 名、専攻科地域看護学専攻 21 名の入学者となり、昨年より 4 名減の 325 名となった。定員割れの学科があり、次年度に向けてさらに対策が必要である。

- (2) 本学学生のキャリア形成は、必要不可欠であることから、平成 28 年度から全学科で実施している。本学で作製したキャリアノートの活用、キャリア形成セミナーの開催や就活講座、学生のマナー指導等に積極的に取り組み充実を図っている。また、各学科が中心となって、卒業生を講師に招いての「ようこそ先輩」を開催・拡充を図り学生の将来の生き方や職に対する意識を高めるなど各学科の特色を生かしたキャリア形成に効果的であった。
- (3) 大学教育の入口から出口に至る教育の充実を図るため、本学の方針としてディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）を学内及び学外に明示し、その方針に沿った教育の実践に努めた。

- (4) 国家試験対策では、本来の授業の充実と補習活動の充実を図り各学科（医療衛生学科医療検査専攻及び歯科衛生専攻、看護学科、専攻科地域看護学専攻）とも100%を目指し取り組んだ。29年度の合格率は、専攻科地域看護学専攻の保健師の国家試験は6年連続100%を達成したが、他の学科は各試験ともに一定の向上がみられるが全国平均を少し上回る状況であり、全学科100%の目標は達成できず、さらにきめ細かな指導対策を実施する必要がある。
- (5) 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」の活用による教職員の資質・指導力の向上に関しては、学内の研究授業の実施（年間11回）、授業評価のためのアンケートの実施や講演会（FD・SD共同）の実施、愛媛大学等の主催する研究会・フォーラムへの参加を通じて所期の目的達成の努力を継続した。

また、本年度はFD・SD活動研究発表会を新たに実施するとともに、年間の活動をまとめた「高知学園短期大学FD・SD活動報告書（154ページ）作成するなど、より積極的な取り組みが実施できた。
- (6) グローバル化に向けて外国の大学との連携、留学生の受け入れ等については昨年度同様に継続して取り組みを進めた。
- (7) 国の中央教育審議会答申に対する文科省や日本短期大学協会、東京都内の私立大学への訪問等情報収集に努め、調査研究を実施している。
- (8) 短大の将来構想については、10月より学内に改革推進チームを編成し、将来構想の具体的な検討に着手した。
- (9) 高知県の三大学、学園短大、高知高専の高等教育機関と産業界で構成する産学官民連携センターの活動に積極的に参画するとともに地域貢献に関する事業の取り組みを進めてきた。これまで幼稚園・小学校・中学校・高等学校で実施してきた健康教育も継続拡充している。また昨年に引き続いて旭地域の高齢者を対象として、健康に対する意識の醸成や地域の方々の本学に対する理解を得ることを目的として各学科・専攻の特色を生かした「いきいき健康フェア」を開催し旭地域だけでなく、広域からの参加を得て好評を博した。今後更なる地域貢献が期待されている。
- (10) 学習効果向上のための施設・設備の充実では、老朽化した施設設備の改修に積極的に取り組み5号館全体のトイレの全面洋式化や、医療検査専攻の実験実習室の機器の整備、教室の照明機器の照度不足に対応するための照明設備の充実等教育環境の改善も前進した。
- (11) 震災対策等は、震災対策委員会を中心に学生・教職員の防災意識の強化を図るための防災講演会、防災訓練を実施している。また学内の防災設備の点検や、防災機器備品等の整備も計画的に行っている。学生・教職員が必携としている防災マニュアルについても毎年更新し充実を図っている。
- (12) 県内高等教育機関の学長・校長で「高知学長会議」を組織し高等教育機関としての教育や地域に貢献する人材づくり、各校の所有する施設設備の共同利用、災害時の連携、更には各大学における禁煙対策や部活動のあり方等について意見交換会を行っている。今後も更に連携し充実した教育環境の確保に努める。

3 募集活動

- (1) 入学者選考

昨年度と同様に9月の特別推薦選考から3月の試験選考Bまでの6種類の選考と社会人選考3回、専攻科2回の選考を予定どおり実施できた。

(2) オープンキャンパス

29年度は6月から9月にかけて4回実施した。オープンキャンパスが受験者増に直接繋がることから、積極的に広報活動を展開するとともに保護者を対象にした保護者のための講座を設ける等、内容の充実に更なる努力を行い参加者の増加に努めた。その結果、参加生徒963名(44名増)、参加保護者337名(75名増)、全体では1,300名(119名増)の参加を得た。近年は保護者の参加が増えている。

(3) 高校訪問等

本学の学生募集入試委員会の教員と本学の学生支援課担当職員の協働体制により、効果的な高校訪問、高校主催の説明会、高校の学校行事や講演等積極的に参加し、高校と本学の信頼関係を構築しながら募集活動を展開した。また、本学主催の高校教員を対象とした入試説明会を本学で実施し、多くの教員の参加を得た。更に27年度からは、県外実施する進学説明会等へも参加している。

(4) 高校の進路指導に関する授業等

各高校の主催する進路指導講座やキャリア形成講演会に参加し、直接高校生に授業を行う模擬授業の機会の増加や、PTA活動の一環として保護者を対象に行われる説明会にも講師として招聘される頻度も増加し、生徒・保護者両面の対策を実施した。

(5) 高知高校との連携

フェローシップによる対策を実施するために高校との連携を密にし、高知高校の2年生は授業見学とオープンキャンパスへの参加、3年生は授業参加及びオープンキャンパスの参加等を行い、本学に対する理解を深めるとともに進学意欲を高めることに努めた。

(6) 広報計画実績

本県に対する卒業生の貢献度や就職率の高さを強調し「社会にいちばん近い大学」としてのイメージづくりに努めるとともに、高校生の目線でのアピールを目的として「より高く、より深く。」のキャッチコピーを加えて本学の特色を強調してきた。新聞、テレビ、ラジオ等の広報活動は予算内でより効果的に展開できた。

(7) 募集実績

平成29年度募集実績

学科・専攻	出願者	合格者	入学者
生活科学学科	69	69	64
幼児保育学科	91	87	83
医療衛生学科 医療検査専攻	65	56	51
医療衛生学科 歯科衛生専攻	29	28	28
看護学科	104	73	67
専攻科応用生命科学専攻	14	11	11
専攻科地域看護学専攻	31	21	21
合計	403	345	325

4 進路指導実績

(1) 就職指導

各学科の就職委員と学生支援課、キャリアセンターの緊密な連携による学生指導やキャリア形成セミナー等の講演活動による意識の向上、就職資料の充実、IT 関連の整備等を通じて、学生達の職業意識の高揚を図り、学生が積極的に就職活動に取り組む姿勢が向上した。

また、求人開拓も行なうなど就職希望者全員の就職に向けて努力を重ねた。その結果、9年連続しての100%の就職率となった。

(2) 進学指導

本学の専攻科への進学者 30 名、他大学への進学者は 7 名。

(3) 平成 29 年度卒業生の進路状況

学科・卒業生数	職種	業種	就職者数	備考			
生活科学学科	栄養士	病院等	5	進学 : 1 その他 : 2 家庭 : 0			
		学校給食等	0				
		集団給食等	24				
	教員	栄養教諭	2				
	事務職員等	一般企業等	3				
		医療事務	4				
	上記以外	8					
卒業者数	49	就職希望者数	46	就職決定者数	46	就職率	100%
幼児保育学科	保育士	保育園等	55	進学 : 3			
	教員	幼稚園	18	その他 : 0			
	事務職員等	一般企業等	1	家庭 : 2			
卒業者数	79	就職希望者数	74	就職決定者数	74	就職率	100%
医療衛生学科 医療検査専攻	臨床検査技師	病院等	9	進学 : 12			
		検査センター	11	その他 : 2			
		上記以外	1	家庭 : 3			
卒業者数	38	就職希望者数	21	就職決定者数	21	就職率	100%
医療衛生学科 歯科衛生専攻	歯科衛生士	歯科医院	32	進学 : 0			
				その他 : 1			
	上記以外		0	家庭 : 2			
卒業者数	35	就職希望者数	32	就職決定者数	32	就職率	100%
看護学科	看護師	病院	46	進学 : 19			
	教員	学校等	1	その他 : 2			
	事務職員等	医療事務	0	家庭 : 3			
卒業者数	71	就職希望者数	47	就職決定者数	47	就職率	100%
合計 卒業生数	272	就職希望者数	220	就職決定者数	220	就職率	100%
専攻科 応用生命科学専攻	臨床検査技師	病院等	7	進学 : 2			
		検査センター	1	家庭 : 0			
修了者数	10	就職希望者数	8	就職決定者数	8	就職率	100%
専攻科 地域看護学専攻	看護師	病院	11	進学 : 0			
		施設等	0	その他 : 0			
	保健師		3	家庭 : 0			
	教員	学校	4				
修了者数	18	就職希望者	18	就職決定者	18	就職率	100%
総計						進学 : 37 その他 : 7 家庭 : 10	
卒業(修了) 者合計数	300	就職希望者数	246	就職決定者数	246	就職率	100%

*備考のその他とは、専門学校・各種学校・職業訓練入学。科目等履修生・卒後研修生。

5 人事計画実績

- (1) 平成 29 年度の専任教員は、平成 28 年度と同様の 57 名となった。
兼任教員は、143 名となった。
- (2) 専任職員は、18 名となった。

6 教育研究実績

(1) 生活科学学科

1) 教育実績

- ① 食・栄養・健康に関わる理論と技術を多様な講義や実習、演習を通じて、きめ細かに指導し習得させるとともに、食・栄養に関わる医学的知識を備えた栄養士を育成するために、各教員は自己研鑽に努め、授業・実習・実験の工夫と改善を行った。
- ② 調理学実習では、個々の学生の調理技術向上を図るとともに、別途補講により個々の学生のスキルアップに努めた。臨床栄養学実習では、大量調理実習室を活用して病院食における治療食の大量調理を体験する授業に変更し、実践力を身に付けた。
- ③ 学外実習にむけての実践力、応用力を習得する目的で、7月30日に「栄養士・管理栄養士倫理綱領」朗読と旭光徽章の授与による「飛翔式」を執り行い、実習に臨む姿勢と意識を高めた。
- ④ キャリア形成、就職活動の一環として、5月22日に第1回生生活科学学科2年生を対象に就職合同説明会を開催した。実施参加企業は12社（委託9、直営3）で19名の参加であった。はじめての試みであったが学生の就職活動につながった。
- ⑤ 栄養士実力認定試験（主催：一般社団法人全国栄養士養成施設協会）の新たな取り組みとして、6割の基準点に達していない学生に、模擬試験の再試験、再々試験、再々々試験を実施した。結果、認定証Aの学生の割合が増加、認定証Cの学生の割合が減少し、全国平均点との差異が小さくなるなどの効果が得られた。さらに本年度より、2年次の実力認定試験A判定の数を増やす目的で、1年次に模擬試験を実施し教育効果を検討して、2年次の実力試験につなげる取り組みを行った。
- ⑥ 高知県公立学校教員採用候補者選考審査（栄養教諭）を受験する学生への受験対策として、6月の試験までに2月から集中講義として、栄養教諭採用審査対策講座を実施した。合格には至らなかったが、学生のやる気や学ぶ意欲の向上につながった。
- ⑦ 在学生および卒業生を対象に管理栄養士国家試験準備講座を開催し、管理栄養士受験対策を行った。
- ⑧ イキイキ健康フェア（5月14日）に、生活科学学科では、食事の提供と健康講話ならびに栄養相談を実施した。健康講話では高齢期の健康について、フレイルチェックなども実施し、学生28名、教員10名が参加した。
- ⑨ 2生が主体となって1年生を歓迎するHLS Welcome Partyを開催した。授業や大学生活について1年生が2年生に相談したり、2年生からはアドバイスがしやすいきっかけづくりとなった。
- ⑩ 平成29年に公益社団法人日本栄養士会が、8月4日を「栄養の日」、8月1日～7日を「栄養週間」と制定し、栄養ワンダー2017イベントを実施。この催しに合わせて、

本学では、平成 29 年度第 3 回オープンキャンパス（平成 29 年 8 月 20 日）の際に栄養ワンダー2017 を開催し、来学の高校生、保護者に栄養の啓発活動を行った。

- ⑪ 行政と民間企業の有志による「土佐茶プロジェクト」に本学科の学生が、土佐茶ガールズを結成して参加し、土佐茶の普及活動を行った。また、キャリア形成演習の一環として、9 月 19 日に土佐茶特別セミナーを開講し、生活科学学科一年生が参加した。
- ⑫ 高知城ホール料理コンテストへの参加。11 月 26 日に高知市文化プラザかるぽーとにて、一般財団法人高知県教育会館主催「高知城ホール学生料理コンテスト 2017 最終審査」が開催され、最終審査に残った生活科学学科 1 年の 4 名が最優秀賞と高知城ホール特別賞をダブル受賞した。
- ⑬ 公益社団法人 日本糖尿病協会主催、専門・短大・大学生による糖尿病レシピコンテストアイデアレシピに学生 2 名がエントリーした。受賞には至らなかったが、レシピ集に参加大学として記載された。

2) 研究実績

平成 29 年度は、著書（1 編）、論文（1 編）、学会発表（7 編）、その他講演など（26 編）を行い、それぞれの専門性を高める研究活動を行った。

(2) 幼児保育学科

1) 教育実績

- ① 本学科の定めた教育課程編成・実施の方針に基づき、更なる教育効果の向上を目指して、教養教育科目の厳選を行い教育課程の充実を図った。
- ② 本学科の学位授与の方針に基づき、卒業生全員が幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得することを目標に、努力したが、平成 29 年度卒業生 79 名中 77 名が両方を取得し、1 名は幼稚園教諭のみ、他の 1 名は保育士のみとなった。
- ③ 学生の学習活動や学生生活全般の向上を図るため、学生の将来展望と意欲付け及び教員の指導力の向上と協働体制の確立に努め、一定向上したが今後更に向上への努力が必要である。

2) 研究実績

平成 29 度は著作 1 件、学会発表 4 件、研究紀要投稿 6 件と昨年より 4 件ほど増加した。

(3) 医療衛生学科

(3-1) 医療検査専攻

1) 教育実績

- ① 学内教育において実践力をもった臨床検査技師を育成するために各教員が教材の開発と教育の工夫に努めた。また、臨床施設の協力のもと病院見学実習（1 年次）、夏期体験実習（2 年次）、臨地実習（3 年次必修）を実施した。さらに高知県臨床検査技師会と連携した学生支援活動（2 年次）を 2 回開催したほか各種研修会への参加を推奨した。
- ② 臨床検査技師国家試験は、各教科の国家試験対策に加えてチーム指導と個別指導を行った。その結果 38 名が受験し合格者は 34 名（合格率 91.9%）であった。また卒後研修生 3 人が全員が合格した。（全国合格率 75.0%）

- ③ 在学中に取得できる各種資格についても受験を勧め、模擬試験等を実施した。その結果、健康食品管理士認定試験（3年次）は合格者30名（81.1%）、中級バイオ技術者認定試験（2年次）は合格者16名（46.0%）であった。
- ④ 臨床検査技師の高度化への対応として学生への進学支援をした結果、専攻科応用生命科学専攻に11名が進学した。また、大学編入者が1名（徳島大学）であった。
- ⑤ 学生のモチベーションを高めるために、医療検査専攻の全学生が参加するキャリア形成事業を開催した。宣誓式（4月）、臨地実習報告会（9月）、在学生オリエンテーション「先輩から学ぶ」（3月）を実施した。また応用生命科学専攻の修了研究発表会（前期・後期）にも全学生が参加した。さらに、中国四国医学検査学会（下関市）において開催された学生フォーラムに参加するなど学外行事にも活動を広げた。
- ⑥ 学習成果を高めるために、教員がFD活動に積極的に参加し、テキスト作成、ループリック相互評価の導入、アクティブラーニングなど可能なものから授業に取り入れ改善に努めた。また日本臨床検査学教育学会に参加し、全国の優れた実践から学び授業に導入した。本学の特徴ある教育実践についても学会発表した。
- ⑦ 健康食品問題、リレー・フォー・ライフ、骨髄移植推進事業、子宮頸がん予防・啓発キャンペーンなどの活動に参加し、健康・医療分野で学生と共に社会貢献した。
- ⑧ 4回目となる体験実習「臨床検査をのぞいてみよう！」を実施し、高校生22名の参加があり、事業を通して高校生に臨床検査技師の職業について理解を広めた。

2) 研究実績

- ① 医療検査専攻教員の研究業績は延べ論文2編、学会発表4題、その他11であった。
- ② 研究活動の活性化を図るため医療検査専攻研究セミナーを3月に開催した。
- ③ 外部資金獲得については日本学術振興会科学研究費助成事業へ2名が応募したが、研究費獲得には至らなかった。1名は助成金事業による研究を継続中である。

(3-2) 歯科衛生専攻

1) 教育実績

- ① 医療人としての倫理観や人間性そして専門的知識の指導の充実については、1年次には授業を通して職域の異なった先輩歯科衛生士の話しを聴講し2年次では継承式の目的を理解して実習に臨み、3年次には臨床・臨地実習を通して幅広い知識を吸収することに繋がった。
- ② 1年生の段階から主体的な学びとなるよう1年生から3年生の縦割りのグループを作り、「健康教育」の授業である歯みがき指導実習に参加させた。また、この授業を通して、幼児・児童・生徒等への年齢層にあった対応等、学習効果がみられた。指導施設数および対象人数は幼稚園・保育園（18園514名）小学校（31校1,954名）中学校（10校921名）特別支援学校（2校91名）であった。また、歯と口の健康週間行事では、高知市・高知市歯科医師会主催の「歯っぴいスマイルフェア2017」に3年生は「手形コーナー」2年生は「ステージイベント」として各班で作成した媒体を用いて歯みがき習慣の啓発事業を展開した。
- ③ キャリア形成教育の一環として実施した「就職フェア」では、44歯科医院95名の参加のもと実施され、「求める歯科衛生士像」「歯科医院の診療方針」などについて面談を

行い、学生の意識の高揚となった。

- ④ 歯科臨床実習においては、事前に高知県歯科医師会と意見交換会を開催し、実習の基本方針等の連携を強化した。
- ⑤ 全学科の取組みである「健康教育演習Ⅰ」では、本学附属幼稚園において歯みがき指導、「健康教育演習Ⅱ」においては高齢者を対象に口腔体操などを通して他科と連携し、口腔衛生の必要性、口腔機能の向上を共有した。また、実践を行うことにより各年齢にあつたコミュニケーションスキルをアップすることに繋がった。
- ⑥ 歯科関係の企業に行くことにより、医療先端技術主に歯科技工等の過程を見学し、基本的な材料の特性を理解することにより職業意識の向上に繋がった。

2) 研究実績

- ① 高知学園短期大学紀要第 48 号に歯科衛生専攻の教員の専門とする内容を分担し投稿した。
- ② 部資金取得に向けては、「科学研究費助成事業セミナー」を受講し、次年度に向けての意欲の向上に努めた。
- ③ 北京大学口腔医学院との交流は 29 年度はなかったが次年度は実施する予定である。

(4) 看護学科

1) 教育実績

- ① 本学科の定めた学習成果に向かい、各教員が授業内容の見直しと改善点について検討し、それを意識した授業の工夫に努めた。また、平成 31 年度のカリキュラム改正を目指し、学生の学習上の課題の顕在化や卒業生の動向などを分析し、次年度教務委員を中心にカリキュラム改正ワーキンググループを編成して取り組むための準備を行った。
- ② 実習施設連絡調整会議は、平成 29 年 11 月 29 日に本学にて実習施設 13 か所 19 名、看護学科教員 14 名の参加のもと実施した。本学からは学科における教育の取り組み、昨年度の課題とされた実習中の連携に関して改善にむけての取り組みを説明した。教育の取り組みにおいては、近年の学生の特性を考慮し、学生が 5 つの力（基礎学力、あきらめずに考える力、主体的に行動する力、自己を振り返る力、思考を表現する力・他者に伝える力）を身に付けることができるよう、“基礎学力向上に向けての取り組み”、“戴帽式における教育的関り”、“ポートフォリオの活用”の 3 つの教育の取り組みについて説明した。臨床側の参加者からは、連携や実習指導体制、学生の病棟スタッフの影響、学生のマナーや挨拶など概ね良い評価をいただいた。

実習指導者連絡会は、高知医療センター（臨地実習説明会：平成 29 年 4 月 13 日、臨地実習日程調整会：11 月 7 日、実習連絡会平成 30 年 2 月 6 日）、高知県立あき総合病院（実習連絡会：6 月 14 日）、JA 高知病院（実習打ち合わせ会：9 月 25 日）、高知赤十字病院（5 校会：11 月 27 日）、近森病院（実習打ち合わせ会：11 月 13 日）に出席した。実習指導者と教員との連携の課題等の具体策の話し合い、各実習前における実習内容の説明や意見交換、事前研修を実施している。さらに、実習終了後は各施設において実習反省会を実施し、次年度に向けての取り組みを検討するなど、PDCA サイクルを意識した取り組みを実施した。

- ③ 臨床講師との意見交換会を年 2 回実施した。今年度からは、臨床講師からの要望を踏

まえ、実習終了後の開催とした。

第1回は、平成29年8月30日に中会議室で臨床講師4名、看護学科教員8名が参加し実施した。近年の学生の特徴（伝えることがリセットされ残らない、ハングリー精神の乏しさなど）を踏まえた教育の難しさや実習環境の厳しさなどについての意見交換がなされた。

第2回は3月26日に実施した。参加者は、臨床講師3名、看護学科教員14名であった。臨床講師は学生の成長は感じてはいるものの、学生の態度や学びへの取り組みに対して自身の期待値との乖離があること、事前の打ち合わせへの課題について意見が出された。

臨床講師制度を開始して9年目を迎える。臨床講師は臨床現場からすると大学の教員の立場であるがその立場に臨床講師自身が戸惑いを抱いていること、臨床講師のイメージする看護学生像と目の前の学生の状況の乖離が年々大きくなっていることへの教育的関わり限界等、臨床講師制度の課題が改めて浮き彫りになってきており、今後の課題である

- ④ 入学前からのキャリア形成支援を意識し、合格者登校日において入学後の看護学の学習につながるための課題を出した。課題の必要性や意図を説明した。また、初めての臨地実習に臨む2年生に対し、看護専門職として取り組む決意を表明する「戴帽式」を実習前の5月に実施した。「生涯学習」を11月末に実施し、卒業生修了生5名、在学学生15名、教員10名の参加があった。二部構成で企画し、学習の機会、交流の機会を設けた。参加者からは、「互いに刺激になった。」「卒業生の話聞いて、将来のイメージができた。」との感想が聞かれているように、卒業生同士の交流をとおして、互いに刺激しあう場とすることができた。また、在学学生は卒業生からの情報を得て、自分の近い将来のキャリアに対するイメージづくりにつながった。3月には、自分の将来に対する具体的なイメージの形成ができ、学生生活を有意義に過ごすための意識を高める目的で「ようこそ先輩」を実施した。学生の感想からは、日々の生活の過ごし方を見直し学びへの決意を新たにしたり、看護師以外の職種について広く知ることができ将来の方向性を考える上での参考となるなど、意義ある開催となった。
- ⑤ 「高知県立高知若草養護学校修学旅行介助ボランティア（3名参加）」「土佐の夢話想2017（高知がん患者支援推進協議会主催）ボランティア（2名参加）」「第23回日本保育保健学会ボランティア（23名参加）」「リレー・フォー・ライフ2017（学生10名、教員7名参加）」「第7回キッズ☆バリアフリーフェスティバル（障害児向け福祉機器展）（14名参加）」「高知龍馬マラソン2018救護ボランティア（10名参加）」「高知赤十字病院災害訓練ボランティア（34名参加）」のボランティア活動に参加した。今年度は昨年度と比較してボランティアへの参加者が格段に増えた。取り組み始めたポータルサイトの中で、ボランティアの記録を“見える化”したことも影響したと思われる。

2) 研究実績

- ① 看護学科・専攻科地域看護学専攻教員の研究実績は、論文4編、学会発表6編、その他7編であった。
- ② 学科内FD活動を通じた共同研究体制を2グループ作った。外部資金への応募には至っていないが、学内で実施された科学研究費獲得のためのセミナーに参加した。

(5) 専攻科応用生命科学専攻

1) 教育実績

- ① 平成 29 年度入学者 11 名中 10 名が専攻科を修了し、大学改革支援・学位授与機構から学士（保健衛生学）の学位を取得した。（1 名は進路変更を理由に前期で退学）。
- ② 「バイオ上級技術者認定試験」を 3 名が受験し、2 名が合格した（合格率 66.7%）。
- ③ 高知学園短期大学の学外活動であるハッピースマイルフェア、いきいき健康フェアで骨密度測定や健康食品の安全性に関するパネル展示を行い、地域の方々との交流を通して、臨床検査技師としての実践力を養った。
- ④ 日本対がん協会主催のがん撲滅チャリティイベントであるリレー・フォー・ライフ in 高知に参加し、がんやその患者に対する理解を深めた。また、高知県主催のがん検診受診向上キャンペーンで子宮頸がんパネル展示を行い、臨床検査技師としての専門性を活かして、がん検診の重要性を社会へ発信した。
- ⑤ 第 36 回高知県医学検査学会に 1 名の修了生が修了研究の成果を発表した。また、平成 29 年度日本臨床衛生検査技師会・中四国支部医学検査学会・学生フォーラムで、1 名の学生が自身の臨床検査技師としての将来像を発表することができた。

2) 研究実績

（本科を含む。）

(6) 専攻科地域看護学専攻

1) 教育実績

- ① 学生が主体的に学習できるようグループワークを主体とする授業展開を実施した。グループのメンバー構成や成熟度によって学習の理解が異なるため、教員のファシリテーション力の向上が不可欠である。また、学習への動機づけの工夫と学生との到達目標の共有化が今後の課題として考えられるため、ルーブリック評価表の作成と毎回の授業でリフレクションシートを記入する取り組みは、科目ごとで段階的に開始しているところである。
- ② 平成 29 年度も一泊二日の日程で、土佐町におけるフィールドワークを実施した。その結果、学生は、体験から人々の生活や地域に対する捉えが広がり、地域とは「場」という解釈から様々な要素を含んだ概念であることに気づくことができた。また、地域組織活動の内容や地域の中での役割などを具体的に理解でき、自分の言葉で語れる力が身についたことは、グループワークでの課題解決の方策、施策化を検討していくための土台となり、公衆衛生看護のイメージの促進につながった。さらに、自分自身の住む地域への関心も広がり、このことは地域に貢献できる人材育成につながるものとする。このように、フィールドワークの取り組みによって、一定の効果は得られたが、事前の目標設定と事後の振り返りを充実させ、さらなる学習成果につなげることで、フィールドワークを基盤として、科目間のつながりを検討していくことが必要である。
- ③ 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による特例適用専攻科として、1 年間のスケジュールをほぼ計画通りに進めることができた。指導教員間で情報の共有化を図るためにグループを作り、相談や検討をしながら学生への指導を進めていける体制を整えた。

このことは、教員の指導の幅の広がりや修了研究全体の課題の抽出や改善に効果があった。また、成績評価においては、ルーブリックの活用と主査、副査をおき複数名で対応することで、評価の透明性や客観性の確保につながった。

- ④ 公衆衛生看護実践論において、公衆衛生看護学実習前にはケースメソッドを継続して取り入れ、事例を用いてグループでディスカッションを重ね、個人から地域全体へつなげる思考過程のイメージ化を図った。事例は、成人、母子保健から成人、精神保健分野に変更し、地域の中で起こりやすい倫理的問題にふれ、学生間で事例を通して検討できるようにサポートした。実習前に実施することで、実際に臨地で倫理的な場面に出会った際に、自分で考えぬき、実習での学びを深められるように準備性が獲得できるように工夫した。
- ⑤ 入学前から保健師や養護教諭としての就職希望者の把握に努め、早期に対策を行えるようサポート体制を整えた。その結果、養護教諭2名、保健師3名の正職採用につながった。保健師や養護教諭を職業選択の1つの候補として考えられるよう、その職業について知ることを看護学科の時から意識づけしていくことも必要である。

2) 研究実績

(本科を含む。)

※平成29年度国家試験受験状況(参考)

学 科		試験名称	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率
医療衛生学科	医療検査専攻	臨床検査技師国家試験	37	34	91.9%	79.3%
	歯科衛生専攻	歯科衛生士国家試験	34	32	94.2%	96.1%
看護学科		看護師国家試験	71	68	95.8%	91.0%
専攻科地域看護学専攻		保健師国家試験	18	18	100.0%	81.4%

[2] 高知中学高等学校

1 事業の概要

建学の精神である「人に信頼される人物の育成」を具現化するため、五つの教育目標（・たくましい心とからだ ・確かな基礎学力 ・豊かな情操 ・信頼される人間 ・自立）及び学校生活の三原則（・正しい身なり ・掃除の徹底 ・挨拶の励行）を掲げ、全校教職員・生徒がこれを実践した。

2 事業の実績

(1) 入学生の確保

① 募集活動

生徒募集活動においては、学校案内・募集要項を高知市内及び周辺地区の小学校や県内中学校・学習塾に送付するとともに、中学校挨拶回り・県内塾回りや公立中学校の進路説明会に参加した。

中学に在籍する生徒のうち小学6年生の弟妹がいる家庭に対して、中学受験を呼び掛けた。

6月に中学オープンスクールを開催し、10月には地区別入試説明会を県内5会場、11月には本校で開催した。あらたに、中学校及び高校の受験者を対象に学校説明会Winter（夜間）を、11月から1月にかけて本校で3回開催した。

小中の内部進学率の向上対策として、10月に保護者対象の入試説明会を高知小で開催し、同月に高知小4～6年児童を対象にオープンスクールを開催した。中高間においては、中3学年団が生徒・保護者に対して積極的な内部進学取り組みや情報提供を行うとともに、高校教員が中3生徒対象に高知高校を知る校内説明会を開催した。

また、ホームページを活用して、学校行事や日々の部活動の様子などを発信した。

◇学期ごとの募集活動の状況

1 学期	学校案内の部分改訂 県内公立中学校主催の学校説明会に参加（城北、西部、朝倉、横浜、春野） 中学オープンスクール開催「小学生のためのオープンスクール」54名参加（6/25） （体験授業（英語・理科・家庭・美術）・部活動体験） こうち私立中高合同フェア 2017に参加（7/30）
2 学期	県内公立中学校及び学習塾へ学校案内・募集要項等の送付 公立中学校及び学習塾を訪問 GAKUEN Festa 2017での募集活動（9/18） 地区別入試説明会（土佐市10/2、須崎市10/3、南国市10/5、安芸市10/11、四万十市10/13）5会場 高知小学校児童のためのオープンスクール（10/24） 入試説明会開催（入試説明会、部活・ICT授業体験）（10/29） 学校説明会Winter（11/16、12/6）

3 学期	学習塾訪問
	学校説明会Winter (1/25)
	高校推薦入試 (1/11) ・一般入試 (1/18、19) (本校、安芸、四万十の3会場)
	中学入試 (2/17、18) 、中学2年生転入学試験 (2/17)
	中学Ⅱ期入試個別説明会 (2/20、21、23)
	中学Ⅱ期入試 (2/24)

② 入試結果

中学校では志願者数が前年度より減少し、入学者は前年度対比18名減の116名となった。高知小からの内部進学率が3年続けて20%台で低迷しており、小中連携教育を軸とした12年間の教育連携を一層推進する必要がある。

高校では、一般入試では志願者・入学者ともに前年度より増加した。また、高知中からの内部進学者数は、前年度対比6名増であったが、推薦入試の入学者数が前年度対比22名減の27名となったことが影響し、入学者数は前年度対比8名減の195名となった。

◇入学者数の状況

中学校

(単位：人)

年度別	入学者数	入試別内訳	
		I期入試	Ⅱ期入試
H30年度	116 (129)	102 (110)	14 (19)
H29年度	134 (143)	115 (121)	19 (22)
増減	△18 (△14)	△13 (△11)	△5 (△3)

※ () 内は志願者数

高校

(単位：人)

年度別	入学者数	入試別等内訳		
		推薦入試	一般入試	内進者
H30年度	195 (313)	27 (28)	48 (165)	120 【145】
H29年度	203 (321)	49 (51)	40 (156)	114 【135】
増減	△8 (△8)	△22 (△23)	8 (9)	6 (6)

※ () 内は志願者数。【 】内は卒業生数。

(2) 教員の資質・指導力の向上と授業改善の推進

教員の指導力向上の取り組みとして、教員一人ひとりが指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、子どもたちの思考を深める方法など、学びに必要な指導の在り方を研究・実践することが必要である。

中学校においては学期ごとに授業公開週間を設定し、教員が相互に授業参観を行った。また、

県外の講師を年間2回招き、授業研究会を開催した。高校においては、大学推薦入試受験者対策として実施した外部講師を招いての面接指導講習に進学指導の教員も参加し、大学受験指導のスキルアップに取り組んだ。

生徒による授業評価アンケートは、中学校は6・12・3月の学期ごと年3回、高校は6・11月の年2回実施し、教員の授業内容や指導方法の改善に努めた。

なお、授業研究・研修会への積極的な参加を、昨年度に引き続き推奨し、中学校では数学授業研究会（大津中）、国語授業研究会（越知中）、人権研修会（つくば）等に派遣、高校では県外大手予備校のアクティブラーニングによる授業やセンター試験過去問分析などの教員研修講座に国語科、社会科、数学科教員を派遣した。

(3) 内部進学率の向上（小中高12年間の教育連携）

高知小6年児童や保護者に高知中の魅力を伝達するため、10月に高知小にて同小6年生の保護者を対象に入試説明会を実施、同月に本校にて高知小児童を対象としたオープンスクール（授業見学・部活体験）を実施した。

小中教育連携として、12月に1年生が世界の鐘を見学、2月に4年生を対象に天体観測、同月の中学音楽発表会に5年生が参加、3校（小中高）児童・生徒によるあいさつ運動を実施するなど、教育連携を深めた。9月の中学運動会への児童の参加も計画したが、雨天延期となり日程の都合上、実現はならなかった。小中の管理職等が出席する連携会議を月例会として開催し、定期的な情報交換を行った。

また、高知中3年生徒・保護者に高知高校の魅力を伝達するため、合同での教科会及び校務分掌における部会を定期的に開催し、連携を図った。12月に保護者を対象に高知中学校の取り組み、高知高校への進学、入試改革等について説明した。

(4) 特進クラスの学力引き上げ

特進クラスには、教科指導力のある教員を配置するとともに、授業改善の推進・支援や習熟度別授業・国数英の補習授業（高校）、個別指導、休業期間中における勉強合宿等の実施、自主学習習慣の確立に取り組んだ。

[中学での取り組み]

- ・中2・3年では学力推移調査に参加し、その結果を指導の参考にした。
- ・隔週土曜授業のメリットを生かし、学則に定められた時数の95.8%を確保した。
- ・習熟度の高い生徒に対して、学習効果を上げるため、中3特進コースの生徒を対象に、習熟度別授業を数学において実施した。
- ・大学受験の中核科目となる英語の実力養成につなげるために、中2・3年を対象に、外国人指導者（ALT）が合計約300時間、授業を行った。
- ・中1・2年において、高知県学力定着状況調査に参加し、その結果を個別指導の参考にした。
- ・月・水・金の早朝に、数学の指導を1学期間25回実施した。1日当たり6、7人が参加した。
- ・夏期休業期間中7/21～31 課外授業（発展的学習）を実施、8/23～29 補習授業を実施、冬期休業中12/26～1/5 中3年対象に補習授業を実施した。夏期勉強合宿8/22～24に中学生3人が参加した。
- ・昼休み及び放課後にパソコン室を生徒に開放し、生徒が自主的に学習する機会を設定した。

[高校での取り組み]

- ・習熟度別授業において特に高3英語で担当者間の連携がとれ、効果的に指導ができたことで、生徒の意欲や成績が向上した。
- ・のべ6日にわたる土曜補習では、一つの教科を朝から昼まで通して勉強することで、深く勉強することができた。
- ・5日にわたる予備校講師による授業は、生徒にとって新鮮で刺激があり、また受講したいとの声も上がり、興味をもって受講した。
- ・英語検定対策補習の実施により、2級に6名、準2級に19名、3級に24名が合格した。高1年では、第2回スタサポで特進クラスのGTZがB2となった。引き続き、計画的な指導を続けていく。
- ・8月にスポーツパレス春野にて実施した勉強合宿には、高1年27名、高2年17名、高3年25名、中学生3名の合計82名が参加した。上級生の勉強に向かう姿勢を見て、下級生の意識を高めることができた。長時間の授業に加え、自習時間もあり、生徒にとっては集中して勉強をすることの重要性に気付くきっかけとなった。
- ・県外大手予備校に、高3生5名(8月)、高2生5名(12月)を選抜し派遣した。生徒にとって、県外の他校生や浪人生と一緒に勉強することが受験の刺激になった。
- ・高2・3年の各2クラス(特進、文理理)にClassiを導入、効果的な学習動画やドリル配信を行い、学習時間の増加や基礎学力の向上にもつながった。また、志望理由書指導でも効果的な指導ができた。

(5) 部活動の実績

運動部14と文化部1が全国大会に出場した。全国中学校総体では柔道男子個人81kg級で準優勝、中学校野球部が3月の第9回全日本少年春季軟式野球大会にて全国優勝を成し遂げた。

なお、中高6年間を視点に入れた指導により生徒を育成することに注力することを、PTAの会等で保護者に説明した。

◇全国大会出場の実績

	中学校	高校
体操部		全国高校総体男女(出場)
剣道部	全国中学総体女子団体(出場)	全国高校総体男女団体・個人(出場)
弓道部		全国高校総体男子団体(出場)
バレーボール部	全国中学総体(出場)	全日本高校選手権大会(出場)
テニス部		全国高校総体男女個人(出場) 全国高校選抜大会男子団体(出場)
ライフル射撃部		全国高校総体男子団体(出場)、個人(3位)

空手道部	全国中学選手権大会（出場）	全国高校選抜大会（出場）
水泳部	全国中学総体200m平泳ぎ（4位）	全国高校総体男子個人（出場）
柔道部	全国中学総体男子団体（出場）、個人（準優勝）	全国高校総体男女個人（出場） 全国高校選抜大会男子個人（出場）
サッカー部	全国中学総体（出場） 全日本女子ユース（U-15）サッカー選手権大会（出場）	
野球部	第9回全日本少年春季軟式野球大会（優勝） 第22回全日本少年軟式野球大会（出場）	第90回全国選抜高校野球大会（出場）
少林寺拳法部	全国中学生大会（出場）	全国高校総体男女（出場） 全国高校選抜大会男女（出場）
陸上部	第48回ジュニアオリンピック走り幅跳び（3位） 第63回全日本中学生選手権走り幅跳び（出場）	
ゴルフ部	全国中学校選手権団体（出場）	
吹奏楽部	第45回マーチングバンド全国大会（銀賞）	

(6) 施設設備の改善と充実

生徒通行の安全確保のため、10月に校舎坂下三差路ののり面側溝工事を行い、グレーチング掛けをした。2月には旭グラウンド内に屋根付きピッチング練習場が完成し、3月に旭グラウンド場内植樹計画の2年目として、桜の若木を29本植樹、記念セレモニーを実施した。

また、吹奏楽部の楽器を前年度からの2か年計画で取り替えした。

3 進路指導実績

[現役生・浪人生の合格者延べ人数]

	現役生	浪人生	合計	
国公立大学	9名	0名	9名	*国公立大学
私立大学	125名	14名	139名	*私立大学
短期大学	14名	0名	14名	中央大学、東洋大学、専修大学、亜細亜大学、日本大学、立命館大学、京都産業大学、龍谷大学、近畿大学、関西大学、追手門学院大学、神戸学院大学、桃山学院大学、岡山理科大学、徳島文理大学、松山大学
専門学校	53名	6名	59名	
各種学校	7名	0名	7名	
合計	208名	20名	228名	
就職	8名	1名	9名	

[現役生の進路（卒業生数202名）]

	人 数	割 合	備 考
4年生大学	115名	56.9%	関東18%、関西37%、中国15%、高知を除く四国17%
短期大学	13名	6.4%	高知学園短期大学 13名
専門学校	49名	24.3%	高知リハビリテーション学院 14名
就 職	8名	4.0%	
その他	17名	8.4%	各種学校7名、浪人4名、未定3名、その他3名
卒業生数	202名		

- ・国公立大への進学数など、質的なものについてはなお大きな課題を残しているが、ここ数年、教員の取り組みに変化と積極性が生まれ、変化は間違いなく出始めている。
- ・大学・短大進学を合せた、いわゆる大学進学率の変化を見ていただきたい。
平成 27 年春 48.0% + 9.3% = 57.3% (全国 ; 54.6%)
平成 28 年春 51.2% + 3.4% = 54.6% (全国 ; 54.8%)
平成 29 年春 46.2% + 12.8% = 59.0% (全国 ; 54.8%)
平成 30 年春 56.9% + 6.4% = 63.3%
- ・本校のこれまでの評価方法や評価基準に課題があることが明らかになり、30年度からこの見直しを確実にを行うように決定した。

4 人事計画の実績

本務教員は計画通りの71名（期限付講師6名を含む）、兼務教員は計画対比1名増の18名であった。本務職員は計画通りの5名（本部職員1名を含む）、兼務職員は計画通りの13名であった。

5 その他の事業実績

南海地震対策及び防災教育

生徒の防災意識を高めるために、通学路における危険箇所や地震、津波が発生したときの緊急避難場所などを確認させる防災通学路調査シートを、学校用と自宅用の2枚作成させ、生徒の防災意識の向上と緊急時の生徒の居場所の確認に利用できるようになった。

7月には日本赤十字社講師を招いての救急救命講習（高校）、たけひご体験・DVD視聴（中学）、11月には高校生徒が講師役となり防災教育を実施した。

また、緊急時の食料と水の備蓄は全校生徒1日分を確保するとともに、防災シートも全校生徒分を確保した。

[3] 高知小学校

1 事業の概要

教育方針である「紳士・淑女（まごころをつらぬく子）の育成」にそって、日々の教育実践に努め、高知小学校が目指す子ども像（勉強にうちこむ子、仲良く助けあう子、ねばり強い子、ゆたかな心の子）を具現するために、指導目標、重点目標として次のことを掲げる。

(1) 「指導目標」

- ① 児童の安全確保を最優先とし、指導の2本柱である「確かな学力の定着」「しつけ指導の徹底」する。
- ② 積極的な学習態度を養うとともに、一人ひとりの個性や可能性を尊重した指導を行うとともに、進路指導の強化・充実を図る。
- ③ 教職員の資質・指導力向上を図り、児童の意欲を引き出す教育実践に努める。全教職員が全児童を把握した上で指導にあたる。
- ④ 幼・小・中高連携教育を推進する。

(2) 「重点目標」

- ① 子どもの夢と希望を叶え、保護者の期待に応える学校をめざす。確かな学力の定着としつけ指導の徹底を図るため、1時間1時間の授業を大切にし、その質の向上に努める。
- ② 教員の資質・指導力向上に向けた研修の充実を図る。教員個々が自己研修による指導力向上に取り組む。外部講師招聘による校内授業研究会を開催する。
- ③ 児童募集活動の見直しと強化を図り、募集定員確保に努める。
- ④ 登下校及び学校生活における児童の安全確保に努める。
- ⑤ 総合学園として小学校の位置づけの中で、幼・小・中高連携教育を推進する。（幼稚園からの入学、中学校への進学に視点をあてた連携教育に取り組む。）また、小学校の特色である英語教育の見直しと充実を図る。

2 事業の実績

(1) 日々の授業の充実と学力の向上・定着を図る取組

- ① 本校創立以来継続している英語教育において、ネイティブ教員と専科教員、担任のティームティーティング体制は、4年目を迎え授業内容が充実してきた。6年生の英語発表も、昨年度の発表を聞いた子どもたちは、創意工夫を重ねて意欲的な発表ができるようになってきた。6年間の学習の集大成としての意義が高まるとともに、聞く方も発表する方もともに学び合うことができた。
- ② 県版学力テストの実施及び結果分析により、算数・国語・理科における児童の学習状況を把握し、学力の定着と向上へ向けての取り組みを強化した。
- ③ 全学年で、10分間の計算テスト、漢字テストを行い、基礎学力の定着を図った。パーフェクト賞（100点）を設定していることが、取り組みの励みとなっている。
- ④ 5年生は学期末テスト、6年生は毎月実力テストを実施し、理解度・学力を確認するとともに、補習等を通して理解の定着を図った。実力テストは、中学校進学へ向けての大切な指標ともなり、中学校入試へ向けての意欲づけになっている。
- ⑤ しつけ指導については、児童手帳「わたしたちのきまり」を基に週目標を設定して、全

教職員で共通理解を図りながら指導した。

(2) 教員の資質・指導力向上に向けた研修の充実

- ① 全員が年間を通して1回の研究授業を行い指導力アップに繋がった。また、国語科、算数科を中心に、「聞く・話す」のコミュニケーション力の育成をテーマとした研究を深めてきた。講師招聘による低・中・高学年での全校授業研究会を開催した。
- ② 全教員が市教研（高知市教育研究会）の授業研究会に参加し、各教科別に研究会に参加した。また、土佐研（土佐教育研究会）の主催する県国語教育研究大会にも全教員が参加した。特別支援教育については、高知リハビリテーション学院の先生を講師として支援会議を行い、具体的な支援方法を学び、実践に繋げることができた。総合学園としての連携教育として、今後も継続して取り組んでいきたい。
- ③ 道徳の教科科に向けて、外部講師を招き道徳の研究授業を実施した。

(3) 学習や生活面での充実を図るための支援体制の確立

- ① 学校カウンセラーは、週8時間（火曜日と木曜日に各4時間）体制での5年目を迎えた。児童・保護者・教員が毎回相談をしており、悩みの解決や児童の学習・生活面での意欲向上に大きく寄与している。特に友人関係での相談が多く、相談内容についてカウンセラーと担任が話し合うことで、早い段階での課題解決に繋がっている。
- ② 特別に支援を要する児童については、個別支援シートに基づいて、定期的に支援会議を開催した。具体的な指導方法を話しあうとともに、支援員が学級に入って支援を行うことで、子どもの変容に繋がった。また、関係機関との連携を計りながら1人ひとりを大切にしたい地道な実践を行った。
- ③ 基本的な生活習慣の大切さについて、全校集会や学級指導で訴えるとともに、日常の学校生活の中で人に迷惑をかけないことや嫌がることをしないこと、思いやりを持って友達に接すること等を繰り返し指導した。また、明るく元気に学校生活を送ること、ものごとの良さや美しいものに感動することについても機会あるごとに伝えた。
- ④ QUアンケート（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を実施し、子どもたちの「やる気」や「学級内での居場所があるか」等を分析・検討して、よりよい学級集団づくりに繋がった。

カウンセラーが担任に分析・検討結果を話すなかで、子どもの変容に至る指導過程が明らかとなり、他の学級での指導に役立つ提案がされるようになった。また、日々の生活の中で、いやなことがないかを問う「相談箱」設置して、友だち関係での課題の早期発見・早期解決に努めた。深刻に悩む前に解決していく手だてとしている。また、子どもの心のサインを見落とすことがないように、子どもへの声かけや家庭への連絡を密に行い、いじめやトラブル等の未然防止に努めた。

(4) 登下校及び学校生活における児童の安全確保

- ① 登下校時の安全確保の観点からスクールバスを利用する児童が多いため、4台運行体制を継続した。また、1・2年生を対象とした交通安全教室や全校児童対象の乗り物別指導を行い、登下校中の安全指導を行った。
- ② 緊急時の対応として、全校で地震・津波を想定した避難訓練を行った。緊急時の備蓄食料として飲み水と乾パンを購入した。（毎年購入）
- ③ 学期に1回、校舎内外に危険場所がないかを点検し、安全確保に努めた。

(5) 総合学園の中の小学校としての幼・小・中高連携教育の推進

- ① 幼小連携教育では、各学年と園児が有意義な交流ができるよう年度始めには年間計画を見直し、年度末には反省会で成果と課題を出し合うことで次年度につなげている。1年生と年長児と一緒に英語を学んだり、お弁当を食べたりの活動を通して小学校生活への期待感を育てるような交流も取り入れている。
- ② 小・中高連携教育では、毎月1回の定例会を開催し、児童・生徒が一同に会して交流できる機会を多く持つようにした。(中学校での部活見学、1年生の世界の鐘体験、4年生の月の観察、5年生の文化祭への参加、水泳・陸上・バスケット等での合同練習)。中・高校生の持つ技量の素晴らしさにふれることで、中・高で学ぶことへの意欲を育て、中学校への進学児童の増大に繋げていきたい。

3 募集活動

- (1) オープンスクール・後期学校説明会や新聞広告、園訪問や体験入学、またRKC主催のイベント「すこやか2017」や学園全体としてのイベント「GAKUEN フェスタ」に参加するなど、募集活動に努めた。
- (2) 基礎学力の定着と向上に向けた学習指導、きめ細かな生活指導を継続することで、保護者の信頼を得て、高い学校評価に繋がるように努めた。
- (3) 子どもたちが生き生き活動している様子や本校の特色ある取り組みを広くアピールするため、ホームページと学校案内のリニューアルを行った。
 - ① ホームページでは、学校行事等日々の子どもの様子をリアルタイムで掲載でき、保護者からも好評を得ている。
 - ② 高知幼稚園からの入学者は、13名(前年度18名)であった。兄弟姉妹関係にもよるが、今後も幼小のより良い連携のあり方を探り、小学校の取り組みを広くアピールしていく必要がある。
 - ③ 30年度入学児童の選考においても、オープンスクール参加者、学校見学者の出願率が高かった。日常の学習や生活の様子を直接参観して、学習に取り組む意欲や姿勢、積極性などが、評価されたものと思われる。保護者の評価は教員の指導力や取組姿勢と密接な関係があるので、さらに教員の指導力・資質の向上に努めたい。
 - ④ オープンスクール参加者や学校訪問者の中で、出願の無い方については園訪問や電話での確認、また、後期の募集案内を持参する等の募集活動を行った。
 - ⑤ 今年度は、入学考査について見直し、考査結果を総合的に判断して合格者を決定した。

[入学者状況]

	受考者	合格者	入学者	欠席・辞退
30年4月入学	69	58	57	辞退1
29年4月入学	63	62	61	欠席1・辞退1
28年4月入学	46	45	45	
27年4月入学	47	47	46	県外転出1

4 人事計画

- (1) 全学年2クラスであり、合計12クラスであった。
- ① 本務教員は16名、兼務教員は10名であった。
 本務教員（学級担任12名、英語専科1名、養護教諭1名、
 教頭1名、校長1名）
 兼務教員（理科1名、音楽2名、書写2名、図工1名、TT教員1名、
 習い事3名(英会話1名、ピアノ2名)
- ② 本務職員は1名、兼務職員は、5名であった。
- ③ 英語、英会話（習い事）は、AZ-HOUSE(元 旭英会話教室)より派遣。

5 教育・研究実績

(1) 児童のために実施した諸計画

- ① 読み書き・計算の強化（全校漢字・計算テスト）
 漢字・計算を年間13回実施した。
- ② 朝の読書、保護者による読み聞かせ
- ③ 美術館・商店・工場見学
 高知県立美術館を6年生が見学。
 2年生、木曜日見学。3年生図書館、消防署見学。
- ④ 防災学習、避難訓練
 小学校独自で開催。
- ⑤ 校内植物教室や舞台芸術の鑑賞、映画教室の開催
- ⑥ 高知幼稚園との交流学习
- ⑦ 学習発表会、6年生を送る会、合格おめでとう会
- ⑧ TTの継続（配慮の必要な児童への支援を実施）
- ⑨ 班毎にテーマを決めて、各学級を回って英語発表（6年生）
- ⑩ 「こども高新」「声ひろば」への投稿
 一昨年度からNIE教育に取り組んでいることから、高学年からの投稿回数も多くなっている。

(2) 児童が受賞したコンクールや作品展、大会

第68回子ども県展

総合優秀校 ・ 毛筆優秀校 ・ 硬筆最優秀校

【推薦】毛筆 1名 硬筆 2名

【特選】毛筆 19名 硬筆 28名 条幅 1名 図画 6名

夏休み学習旅行招待作品展

【入賞】3名（沖縄への3泊4日の旅行招待） 【佳作4名】

（一次合格者）書写 5名 図画 18名 作文 19名

MOA美術館高知児童作品展

図画【MOA美術館奨励賞】1名 【高知県知事賞】1名 【高知市長賞】1名

【高知市議会議長賞】1名 【高知市教育長賞】1名 【実行委員長賞】1名

【高知市教育長賞】1名 【金賞】3名 【銀賞】2名 【銅賞】2名

書写【高知県教育長賞】1名 【高知県小中学校長会賞】1名

【テレビ高知賞】1名 【審査委員長賞】1名 【金賞】2名

統計グラフコンクール (本校は約30年、高知県の指定校となっています。)

第1部(1～2年)【知事賞】1名 【教育長賞】1名 【入選】2名 【努力賞】1名

第2部(3～4年)【知事賞】1名 【教育長賞】1名 【入選】2名

第3部(5～6年)【教育長賞】1名 【入選】2名 【佳作】2名

動物愛護絵画展

【特選 高知県知事賞】1名 【特選 高知市長賞】1名

【特選 県獣医師会長賞】1名 【入選】16名

市民憲章「こんなまちにすみたい」図画コンクール

【特別賞 最優秀賞】1名 【特選】2名

高知市毛筆コンクール (3年生以上が出品)

【特選】3年…9名 4年…11名 5年…11名 6年…10名

【優秀・入選】多数

青少年読書感想文コンクール

【高知県優秀】1名 【県入選】3名 【市入選】10名

高知県教育文化祭「小・中学生作文コンクール」

【教育長賞】1名 【読売賞】2名

こども小砂丘賞作文コンクール

【優秀】2名 【優良】9名

美術教育総合展

(自由平面の部)【特選】2名 【優秀】7名 【入選】25名

(立体の部)【特選】2名 【入選】16名

(毛筆の部)【特選】39名 【優秀】19名 【入選】28名

J A 共済書道・ポスターコンクール

(条幅の部)【銅賞】2名 【佳作】2名

(半紙の部)【佳作】3名

土佐和紙書き初め大会

(半紙の部)【高知県教育長賞】1名 【土佐市教育長賞】1名 【金賞】2名

ごみの減量再利用のための環境標語

【入選】1名

社会科自由研究作品展

【特別賞…自由民権記念館特別賞】1名 【よさこい民権賞】1名

高知市科学展覧会

【優秀賞】4名 【佳作】3名

高知「環境絵日記」コンクール

【優秀特別賞】2名 【低酸素社会づくり賞】1名 【入賞】14名

ライオンズクラブ国際協会主催国際平和ポスターコンテスト

【最優秀賞】1名 【優秀賞】3

ごみの減量・再利用のための環境標語

【入選】1名

全国学芸サイエンスコンクール

【旺文社赤尾好夫記念賞(銅賞)】1名

高知県子ども英語弁論大会

【高知ロータリークラブ会長賞(最優秀賞)】1名

高知市学童水泳記録会

【男子 50m背泳ぎ】5位 【男子 50m自由型】6位 【男子 50m平泳ぎ】6位

【男子 100m自由型】入賞 【女子 50mバタフライ】9位 【女子 50m背泳ぎ】入賞

高知市学童陸上記録会

平成 29 年度は雨のため中止

ジュニア駅伝競走大会

【4・5・6年生の代表チームが参加】20位

みかづき駅伝競走大会

【3・4・5年生の代表チームが参加】6位

図画や毛筆・硬筆は経験豊富な専科の教員が指導にあたった。また、開校以来、作文教育に力を入れ、日々の日記指導などに活かしている。

本校が開校以来『めざす子ども像』として掲げている「ねばり強い子」「勉強にうちこむ子」「豊かな心の子」「仲良く助け合う子」に向けて、児童1人ひとりが自己を見つめ精進していこうとするところに、本校教育のめざす基本的な特色がある。

(3) その他の事業実績

進学状況（高知中学校への進学率 25%）

高知 12名、土佐 7名、土佐塾 7名、学芸 2名、土佐女子 3名、明德 3名、県立国際 1名、公立 7名、県外 6名（私立 3名、県立 2名、公立 1名）（卒業生 48名）

5 施設設備の改善と充実

- (1) 児童昇降口・職員玄関の階段補修
- (2) 電子黒板 2 基設置
- (3) 玄関の学校案内板・特別教室等入口表示板を設置
- (4) 図書室に貸し出しカウンター・書架 3 基を設置
- (5) 校内ドア等の塗装

[4] 高知学園短期大学附属高知幼稚園

1 事業の概要

「幼児自ら気づき、考え、行動することのできる生きる力の基礎を養う」を目的とし、4項目の重点目標を定め、その達成に向け取り組んだ。

- (1) 入園児確保のためにより効果的な募集活動をする
- (2) 幼児は五感を通した豊かな体験をし、心身ともに健康でたくましい子どもに育てる。
- (3) 教職員は実践的な研修・資質向上に努め、子どもに「生きる力」の基礎を養う。
- (4) 地域や家庭、学園内組織(小・中・高・短大・高知リハビリテーション学院)との連携を更に深める。

上記の重点目標は、概ね達成され、継続を必要とすることについては日々努力している。

2 事業の実績

(1) 入園児確保に向けた取り組みでは、校務分掌の園児募集・園開放担当者を中心に年間計画をたて内容の充実に努めた。

- ① 平成30年3月までの来園者数60名、そのうち29年度たんぽぽ組入園児15名、30年度年少入園児11名
- ② 1年間の「あそびにおいでよ」の予定表と、絵描き帳(園保管)を渡し、シールを貼ったり、自由な線描きをしたものを1年の終わりに本人に渡した。また、節季にあった作品も作り持ち帰った。保育者は見本として一冊のファイルにまとめ、園に保管し次年度の参考としている。
- ③ 医療衛生学科による「歯磨き指導」11月、高知県立療育福祉センターより「上手にほめて楽しい子育て」の講話2月、未就園児のみの運動会15組10月に開催した。
- ④ 年3回体験入園説明会を実施した。(H29年9月20日(土)・10月14日(土)・H30年1月20日(土))また、随時説明も4組の保護者にした。
- ⑤ ホームページによる園紹介と、各学年の保育の様子を毎週末ブログに載せ、園での取り組みを紹介した。
- ⑥ 募集チラシを折り込み広告として年2回配布した。また、小学校に在籍する家庭数と・園児の家庭にチラシを配布し入園児確保の声かけをしていただくようお願いした。
- ⑦ 学園内組織との連携交流。特に短大から毎週のリズム指導・小学校との交流は本園が高知県下で唯一の総合学園であることをアピールすることができた。
- ⑧ 子育て応援団 すこやか2017に参加し、園児の発表や園紹介をした。
ブースでは、子ども達の喜ぶ動物ヨーヨーを配付し、その間、対象となる保護者に「園開放のチラシ」・「体験入園説明会のチラシやパンフレット」を説明しながら配布していった。その結果、常に、園開放時2~3名程度の来園者があり、入園につながった。
- ⑨ RKC子育て応援団に協賛し、キャンペーンCMを流す。(TV、ラジオ) 現在も継続中。

入園者数の状況

	学 年	在園児数実績 (5月1日現在)	
		29年度	30年度
満2歳児	たんぽぽ	4	10
満3歳児		2	0
3歳児	もも	40	26
4歳児	ゆり	26	41
5歳児	ばら	37	26
合 計		109	103

- (2) 幼児は五感を通した豊かな体験をし、心身ともに健康でたくましい子どもに育てたい。そのためにめざす子ども像として「すこやかな子」「思いやりのある子」「よく考える子」を基本にした。年間行事を通じて四季折々の日本の伝統文化を学んだり、学園内の豊かな自然環境を活用して子どもが、興味や関心を持って意欲的に取り組む感性豊かに育つよう指導を心がけてきた。
- (3) 教職員は実践的な研修を積極的に積み、子どもの「生きる力」の基礎を養うために自らの資質向上に努めてきた。
- ① 園児一人ひとりの4月の姿から、指導・援助・かかわり方をどのようにしていくのか、学級実態報告をした。その上にたって、全員が年間を通して1回の園内研修・事例研修を行い、資質向上に努めた。本年29年度の研究テーマは、「自分のやりたいことに向かって、心と体を働かせて様々なことに取り組むようになるための、教師の援助や環境構成を考える」の研究をした。年度の終わりには、1年間の実践をパネルにし、保護者に見ていただいた。
- ② 保育者一人ひとりが週日案及び、指導計画の作成をし、日々、保育を实践したことの反省・記録を書いてきた。そして、週末には週日案の記録を園長に提出し、コメントを入れ、明日への保育に繋げていけるよう資質向上に努めてきた。また、私立幼稚園研修、新規採用研修、ミドルリーダー研修、ミドルフォローアップ研修などに参加し、その指導力の向上に努めている。
- ③ 平成30年度には「新幼稚園教育要領」が全面実施となるため、幼児教育の見直しが図られるところは、真摯に学び、実践で検証し、幼児のよりよい育ちと生活に繋げていくように研修を行っている。
- (4) 地域や家庭、学園内組織（小・中・高・短大・高知リハビリテーション学院）との連携を更に深める取り組みとして…
- ① 総合学園としての教職員連携体制を年間計画に位置づけ、継続性のある幼児教育を進めてきた。
- 幼小連携では、年度初めに年間計画を見直し、交流学年と事前・事後の話し合いをしてきた。そして、年度末には反省会をし成果と課題を出し合い、次年度につなげている。特に年長児にとっては、小学校への期待感が大きく膨らんでいる。短大から毎週全園児にリズム指

導にきてくださっていることは、園児にとっては姿勢をよくしたり、リズム感や敏捷性につながっている。また、英語指導に専門教員が学年ごとに入ってくれている。園児は喜んでこの時間を待っている。

3 人事計画

4月当初から7クラス編成（満3歳児）となる。園長を含め本務教員5名、兼務教員10名（時間講師3名を含む）兼務職員5名、計20名で担当した。

4 教育・研究実績

(1) 教職員の資質向上

- ① 文献、幼稚園教育要領指導書を輪読するなど、教育内容を検討した。
- ② 研究保育、研究協議を行い、園内事例研修の場を持った。
 - ・各職員が園内研修（園内の職員で保育を参観しあい、その後協議をする）を7回実施した。協議内容は、園の研究テーマに基づき、視点を持って子どもの姿を振り返り、記録したことを、各々意見を出し合い、園全体として保育を高めてきた。
 - ・各クラスが事例研修協議を行った。（7回）
事例を共有して、子どもの育ちや保育者のかかわりなどについて、よかったことや改善することを確認し話し合った。
 - ・本年度の研究テーマについて、年度末に1年のまとめとして冊子（「なのはな」15号に記載）を作成した。
- ③ 研究会・研修会への参加
 - ・私立幼稚園連合会夏季研修会、幼児教育研究協議会に参加し、保育の質を高めた。
 - ・新採研修、ミドル研修、ミドルフォローアップ研修等に参加し、資質向上に努めた。

(2) 学園内組織との連携

高知学園短期大学幼児保育学科や生活科学学科、医療衛生学科、高知リハビリテーション学院言語療法学科、中学高等学校との連携を密にすると共に、高知小学校とのきめ細かな連携を深め幼児教育の連携を進めた。

- ① 幼児保育学科との連携
 - ・毎週金曜日リズムの指導（年少～年長）
 - ・教育実習（H29.6.5～7.1）実施
 - ・観察実習（H30.2.20～2.25）実施
- ② 生活科学学科との連携
 - ・クリスマスケーキ作り（H29.12.21）実施…24家庭親子参加
- ③ 医療衛生学科との連携（歯科衛生専攻）
 - ・学生による歯磨き指導（年長児を対象）を実施（H29.5.19）
- ④ 各学科との健康教育（全園児対象）の実施（H29.5.20）
- ⑤ 高知リハビリテーション学院との連携
 - ・園児（年中・年長児）が訪問し、学生と交流実施（言語療法学科）（H29.10.23、11.6）
 - ・全園児の体力測定を行った（理学療法学科）（H29.9.12）
- ⑥ 中学・高等学校との連携

- ・中学校家庭科の授業で中学2年生が4回来園。
- ⑦ 短大学園祭に参加予定だったが本年度も雨天で不参加。(H29. 10. 21)
- ⑧ 幼小連携を強化し、活性化を図った。

○1~3, 5年生の各学年と交流

- ・平成29年6月2日(金) 芋のつる植え(2年生)
- ・ 〃 6月12日(月) 田植え体験(5年生)
- ・ 〃 6月13日(火) 学校探検(1年生)
- ・ 〃 7月21日(土) 「すこやか2017」でのステージ発表
- ・ 〃 10月1日(日) 小学校運動会への参加
- ・ 〃 10月11日(水) 英語で遊ぼう(授業参加)(1年生)
- ・ 〃 10月13日(金) お米の収穫(5年生)
- ・ 〃 11月17日(金) 18日(土) 学習発表会への参加(年長児)
- ・ 〃 11月22日(水) 芋ほり(2年生)
- ・ 〃 12月7日(木) おいもパーティー(2年生)
- ・ 〃 12月13日(水) 読み聞かせ(3年生)
- ・ 〃 12月15日(金) 誕生会での歌の発表(3年生)
- ・平成30年1月22日(月) 授業参加・お弁当(1年生)

○年度末に交流のまとめの冊子作成をした。

(3) 異年齢保育の取り組み

- グループでの遊び等を通して人間関係を持ち、思いやりの心を育てるように取り組んだ。
- ・学園内のお散歩、栽培活動、焼き芋パーティー

5 その他

- 交通安全、避難訓練(地震、火災、水害)、防犯訓練等を継続的に行い、安全確保に努めた。
 - ・交通安全教室(H29. 11. 2)実施
 - ・避難訓練の実施(毎月)
 - ・東日本大震災から7年が経過し、福島大川小の事例を学び、生命の大切さを改めて知り、避難訓練実施の重要性を認識した。
- 地域とのかかわり
 - ・運動会、バザー・作品展、表現発表会等のポスターを配布し地域の方々にも見学に来ていただいた。

[5] 高知リハビリテーション学院

1 重点目標と取り組み

国の社会保障政策や医科学の進展に対応していくことができる理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を教育・養成していくため、重点目標を定め、取り組んできている。

全国に先駆けてリハビリ専門職の育成教育にあたってきた先進・進取の気風を承継し、発展させていくため、これに相応しい教育環境の整備に力を注いでいる。

蔵書3万冊、最新の検索システムを備えた新図書館棟の整備を皮切りに、平成29年度までの間3ヵ年で、最先端の教育システムの導入・整備に努めてきた。第一段として、急性期医療に対応できる高度な医療技能や知識を習熟していくことができる人工モデルを用いたトレーニングシステムを平成27年度に、第二段として、高齢者や障害者の在宅での生活サポートプログラムの学習や社会参加を支援する最新設備や工学システムを28年度に導入、そして第三段として、発達障害や認知症などにおける脳の機能評価や解析の学習と人工知能を用いた回復訓練技能システムを29年度に導入し、3ヵ年で3学科に最先端の教育システムを整備した。

平成29年5月に学校教育法が改正され、専門職大学が大学教育の体系に創設・位置づけられた。この新たな大学は創造性豊かな専門職業人を育成していく高等教育機関とされ、当学院が目指す高度な医療専門職業人教育のためには時宜を得た方向であることから、平成31年4月の大学化に向け、同11月に国に設置認可の申請を行い、現在、審査を受けている。

[主要な項目と平成29年度の取り組み]

(1) 先進・進取の教育の推進

国の社会保障政策を見据えた授業科目の設定、医科学の進展に合わせた実習や演習の展開を図るとともに、教員の教授力の向上、資質を磨く研究活動の推進に努めた。

教育環境の面では、3ヵ年で進めてきた最先端の教育システムの導入・整備の最終年として、上述の脳機能評価システムなどの導入を図った。

(2) 目的意識を持つ学生の確保

県内外の学校訪問や出前講座の開催、また、県内高校進路指導教員を対象にした学校説明会には30校(32名)の出席を得た。オープンキャンパスは、年間6回開催するとともに、高校をはじめ各地での進学相談会といった取り組みを積極的に推進し、この中で、高齢化の進展と地域包括ケアといった社会の趨勢を踏まえリハビリテーションの重要性、療法士の役割などの説明を行うことで職業観の醸成とその浸透に努めた。力を注いでいるオープンキャンパスでは体験授業や学校ガイダンスに時間をあててきたが、平成29年度は、472名の来校者を数えたものの、平成30年度の入学者は、118名にとどまった。

(3) 有為な人材の育成

専門技能の習得に欠かせない教育機器の導入を促進するとともに個人学習プログラムに基づく学生教育を進めるなど、一人ひとりと向き合った指導育成に努めた。

高知高校とのフェローシップ(10名)による一貫した人づくりを推進し、基礎的医療知識の修得と職業観を持った学生リーダーの育成を図った。

平成 29 年度の国家試験の結果については、106 名（新卒）が合格（合格率 85%）であった。平成 28 年度とほぼ同じ（87%）であったが、全員合格を目指し、徹底した対策を講じていく必要があるため、基礎専門教科の習熟度の評価をはじめ 1 年次から全学科あげての対応を進めている。

2 教育研究に関する取り組み

(1) 学生のスキルアップ

補講や休暇を活用した授業などにより、基礎学力の向上を図るとともに、専門知識、技能の習得に必要な基礎教科の重点指導に努め、スタディースキル（学習技能）をアップさせていく取り組みを進めた。

また、療法士に不可欠なコミュニケーション能力の向上、社会人としての礼節、至誠心といったソーシャルスキル（対人的技能）をアップさせていくため、専門家を招へいした教育指導や実践研修を推進した。

(2) 教員の研鑽、研究活動の促進

教員の資質の向上を図っていくため、教授法などに関する専門研修や教育研究大会などへの派遣といった取り組みとともに、教員と臨床現場との意見交換会を開催するなど、最前線の情報収集と技術力の向上などに努めた。

また、学会などを通じ、研究活動の成果の発信に努めた。

（論文掲載 54 件、学会発表 24 件）

全国の臨床実習受入施設の責任者を招へいし、専門的知見や技術、情報等を交換する指導者協議会には 195 名（195 施設）が参加、リハビリテーション現場で直面する課題などに対する討議と分科会での検討も行った。

3 学生募集に関する取り組み

(1) 専願による学生の確保（大学化に向けた取り組み）

専願での学生の確保を図るため、学校訪問や進路相談会、出前講座の開催といった取り組みを重点的に推進した。高知高校とのフェローシップによる学生（入学 8 名）を含め、平成 30 年 4 月の入学生に占める専願での入学生は 100 名であった。

入試では、このほかに一般推薦、社会人選考などを行い、118 名の学生の入学となった。

平成 31 年 4 月には専門職大学の開設を目指しており、国の認可の判定時期もにらみながら、高校の進路現場への訪問を中心に、県内外での募集活動を展開していくことにしている。

(2) 学校訪問や進路相談会などの開催状況

学校訪問専門の職員を配置し、県内高校については、原則、毎月 1 回、四国 3 県についてはオープンキャンパスや入試前に重点的に訪問し、進路担当教職員との面談、情報提供などに努めた。

進路相談会については、県内はもとより中四国各地でも開催しており、高校主催のものも合わせると 56 回（584 名受付）行った。平成 29 年度は 33 名の県外高校（7 県）からの学生が在籍した。（平成 30 年 4 月入学は県外 9 名。）県内高校の進路指導教員を本学院に招へいして行った説明会には 30 校（32 名）からの参加を得た。

オープンキャンパスには472名が来校。平成29年度から年6回開催とし、その内容も医療知識の修得と職業観の醸成につながる体験型のものを中心に行ってきた。

4 就職に関する取り組み

教職員一丸となり新規開拓、情報収集等を行うため施設訪問を重ねるとともに、9月末には高知会館にて就職合同説明会を開催、県内外の67施設の人事担当者と学生が直接面談する場を設けるなど、引き続いての全員就職に向け取り組んだ。

総求人件数は1,863件、その求人数は6,566名に上り、就職希望者114名のうち、年度内には111名（県内に52名、県外に59名）の就職が内定した。

5 教職員の状況

人事計画では本務教員30名、兼務教員87名、本務職員12名（うち、本部職員3名）、兼務職員10名としていたが、兼務教員は89名となった。本務職員と兼務職員数に変更はなかった。

参考

表1：入試選考

区 分	定 員	平成30年4月入学者		平成29年4月入学者	
		志願者	入学者	志願者	入学者
理学療法学科	70	70	66	48	44
作業療法学科	40	35	33	43	41
言語療法学科	40	22	19	26	24
合 計	150	127	118	117	109

学生数（4月）：平成26年度 581人：平成27年度 601人：平成28年度 589人
：平成29年度 554人：平成30年度 516人

表2：国家試験

区 分	平成29年度			平成28年度	
	受験者	合格者	合格率	合格者	合格率
理学療法学科	64	57	89% (81%)	59	94% (90%)
作業療法学科	32	25	78% (76%)	31	89% (83%)
言語療法学科	29	24	83% (79%)	21	70% (75%)

・合格率の（ ）は全国

表3：就職状況

(平成30年3月末現在)

区 分	平成29年度				平成28年度		
	卒業生	就職希望者			就職希望者		
		総数	就職内定先		総数	就職内定先	
			県内	県外		県内	県外
理学療法学科	64	62	30	32	62	29	30
作業療法学科	32	27	12	15	34	24	9
言語療法学科	29	25	10	12	27	13	12
合 計	125	114	52	59	123	66	51

・求人件数と求人数：1,863件、6,566人（平成28年度：2,268件、7,429人）